

## 会 議 錄

会議の名称		令和7年度つくば市未来構想等推進会議				
開催日時		令和7年(2025年)9月25日(木) 開会13:00 閉会15:00				
開催場所		つくば市役所 コミュニティ棟3階 会議室A・B				
事務局(担当課)		政策イノベーション部企画経営課				
出席者	委員	黒田委員、小森谷委員、飯島委員、飯野委員、小島委員、貝塚委員、後藤委員、布浦委員、細谷委員、星隈委員、吉瀬委員、今林委員、梅津委員、立原委員、野口委員、吉富委員				
	その他	【事業担当課】科学技術戦略課（中山課長、高橋課長補佐）、デジタル政策課（大垣課長、金塚係長）、ジオパーク室（赤田部主任、永作主事）、周辺市街地振興課（本田課長補佐、吉田主任）、総合交通政策課（上田課長補佐、横田係長）、サイクルコミュニティ推進室（中村室長、柳田係長）、議会総務課（町井課長、藤代係長）				
	事務局	高橋政策イノベーション部長、中根政策イノベーション部次長、川原企画経営課長、中村課長補佐、齋藤係長、阿部係長、石川主任、千葉主事、茂呂主事				
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人		
議題		(1)第2期つくば市戦略プランの進行管理について (2)第2期つくば市戦略プランの実績について (3)デジタル田園都市国家構想交付金事業の進捗状況について				
会議録署名人		確定年月日	年 月 日			
会議次第	1 開会					
	2 座長及び副座長選出					
	3 議事					
	4 閉会					

## <審議内容>

### 1 開会

#### ○司会

定刻になりましたので、ただいまからつくば市未来構想等推進会議を開会いたします。

私は、つくば市政策イノベーション部企画経営課課長の川原でございます。

本日は、最長で 120 分程度の会議となりますので、14 時頃にお手洗い等の休憩を設けたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

はじめに、つくば市未来構想等推進会議委員の就任を御承諾くださいました皆様を御紹介いたします。

#### 【委員紹介】

続きまして、事務局の紹介をいたします。

#### 【事務局紹介】

委員の方へ委嘱状につきましては、皆様のお席にあらかじめ置かせていただいておりますので、そちらを御確認ください。

ここで、本日の資料についてもあわせて皆様と確認させていただきます。会議資料は事前にお送りしておりますが、皆様のお席には、先ほど申し上げた委嘱状のほか、事前にいただいた御意見や御質問を一覧化した資料を当日資料としてお配りしております。加えて、事前にお送りした会議資料に一部修正が生じましたので、差替え資料を 3 部置かせていただいております。また、今回の会議で直接は使用しませんが、昨年度末に策定した第 3 期戦略プランも参考としてお配りしています。不足する資料がございましたら、お近くの事務局員までお声がけください。

### 2 座長及び副座長選出

#### ○司会

続きまして、本推進会議の座長、副座長を選出していただきたいと思います。

つくば市未来構想等推進会議設置要項第3条に、座長及び副座長は委員の互選によって定めると規定されています。どなたか御意見がございましたら、よろしくお願ひいたします。

○貝塚委員

御意見がなければ、事務局に一任してもよいのではないでしょうか。

○司会

ただいま貝塚委員から、事務局に一任してはという御提案をいただきましたが、皆様いかがでしょうか。

【異議なしの声】

それでは事務局からお願ひします。

○事務局

座長及び副座長について、事務局から御提案いたします。

まず座長ですが、筑波大学システム情報系の教授であり、令和5年度まで複数年度にわたりまして、本会議の座長を務めていただきました吉瀬委員を推薦させていただきたいと思います。

また、副座長ですが、長く市議会議員を務めるとともに、現在は市議会議長の重責を担っており、市の政策や実情について、深い見識をお持ちの黒田委員を推薦させていただきたいと思います。

○司会

ただいま、事務局から吉瀬委員を座長とする提案がございましたが、いかがでしょうか。

【異議なしの声】

次に、黒田委員を副座長とする提案がございましたが、こちらについてはいかがでしょうか。

## 【異議なしの声】

委員の皆様の互選により、吉瀬委員が座長に、黒田委員が副座長に選出されました。この場で恐縮ですが、吉瀬座長、御挨拶をお願いいたします。

○吉瀬座長

筑波大学の吉瀬です。座長を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

今回は第2期戦略プランのまとめということで、実績等について御説明いただけると伺っておりますけれども、例年にも増して委員の距離が近い感じがしております。和やかな雰囲気で、いろいろな市民の皆様の御意見を伺えるとよろしいのではないかなと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○司会

吉瀬座長ありがとうございました。

黒田副座長からも一言いただければと思います。

○黒田副座長

副座長を拝命いたしました黒田でございます。吉瀬座長を補佐し、円滑な運営に努められればと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

○司会

ありがとうございました。

議事に入る前に、つくば市未来構想等推進会議について、事務局から説明してください。

○事務局

つくば市未来構想等推進会議について、お手元にある基礎資料1及び基礎資料2に沿って御説明させていただきます。基礎資料1は、つくば市未来構想等推進本部設置要綱になっておりまして、推進会議の役割については、3ページ

の第6条に規定しています。推進会議は、つくば市未来構想及び戦略プランの推進及び進行管理について、市長を本部長とする推進本部の第三者組織として、広く関係者の意見を聴取する場でございます。

続きまして、4ページが基礎資料2のつくば市未来構想等推進会議設置要項になります。こちらの第2条におきまして、推進会議委員の構成は、市民のほか、産業、金融、労働、言論のいずれかの知見を有する方、学識経験者、公共的団体の職員、市議会議員で構成するとしております。続く第5条では、推進会議は必要に応じ、座長が招集することとなっております。そして、座長は会議の議長となります。以上でございます。

○司会

それでは議事に入りますが、ここからはつくば市未来構想等推進会議設置要項第3条第3項に基づき、吉瀬座長に進行をお願いいたします。吉瀬委員、恐れ入りますが、座席の御移動をお願いいたします。

○吉瀬座長

議事に入る前に、推進会議の公開について皆様にお諮りしたいと思います。会議の公開・非公開について、事務局から御説明ください。

○事務局

事務局から、推進会議の公開・非公開について説明させていただきます。お手元の資料6ページから9ページの参考資料1及び参考資料2を御覧ください。

まずは、参考資料1を御覧ください。つくば市では、推進会議を含む懇談会等の会議について公開する条例を定めています。第3条の「会議公開の原則」ですが、附属機関の会議及び懇談会等はこれを公開することとなっており、続く第4条の「非公開とすることができる会議」では、いずれかの条件に該当するときは全部または一部を非公開とできるものとしております。

続きまして、参考資料2を御覧ください。こちらでは、会議の非公開に関する

る条件を定めています。非公開に関する条件について、推進会議では原則これらの人開示情報を取り扱うことはないと考えております。ただし、人開示情報を取り扱うことになった場合や、委員から非公開の申し出があった場合は、その都度審議の上、決定することができるものとしています。以上です。

○吉瀬座長

未来構想等というのは市政の方向性を示す市の最上位計画となっております。その推進に関する審議を公開することで、推進状況や内容を広報するとともに、市政運営の透明性の向上に寄与できると思います。したがいまして、この推進会議は原則公開としたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

**【異議なしの声】**

ありがとうございます。それでは、推進会議は原則として公開します。傍聴の方がいらっしゃれば、引き続き会議を傍聴することができます。

続きまして、議事に入りたいと思います。報告案件としまして、議事(1)第2期つくば市戦略プランの進行管理について、それから議事(2)第2期つくば市戦略プランの実績について、続けて事務局から御説明いただけるということです。よろしくお願ひいたします。

○事務局

**【議事(1)及び(2)について説明】**

○吉瀬座長

どうもありがとうございました。事前にこの内容につきまして、多数の御意見や御質問をいただいております。皆様のお手元にも資料があるかと思いますが、大変数多くいただいておりますので、皆様からいろいろと御意見いただけそうなものをピックアップさせていただいて、まずは御意見を伺いたいと思っております。まず、立原委員から観光の振興について御質問いただいていると思います。立原委員、いかがでしょうか。よろしくお願ひいたします。

○立原委員

資料に書いてあるとおりですけれども、水戸とつくばの比較ということで、つくば駅に降りると、観光施設など、どこでお土産物を買ったらいいのかというところが、まだまだ不十分じゃないかなと思っているので、意見として書かせていただきました。

○吉瀬座長

どうもありがとうございます。こちらについては、事務局の方から何か御説明ありますか。

○事務局

御意見ありがとうございます。参考として、つくば市の取組を補足的にいくつか御紹介させていただきたいと思います。御指摘の土産物につきましては、市としても取組を進めているところです。例えば、つくば市の優れた物産品を「つくばコレクション」という名称で認定し、その販路拡大を支援しています。また、昨年には「つくばのおさけ推進協議会」という協議会が設立されまして、そちらの協議会とともにつくばのおさけの普及を促進しているところです。

つくば駅周辺での取組としましては、B i V i つくば1階で「つくば駅前観光案内所」を運営しているほか、南北自由通路内にある施設を「物産館」としてつくば市物産会に貸出しています。御指摘のような、つくば駅の玄関口としての機能につきましては、市としても重要なプロジェクトとして位置付けて推進しているところでして、つくばエクスプレスを運営している首都圏新都市鉄道株式会社ですか、改札前の南北自由道路を管理している茨城県といった関係者とも定期的に意見交換を行っています。南北自由通路につきましては、扱いとしては県道ということになりますので、そういった法律上の制限もある中ではありますけれども、おもてなし機能の向上のために取組を進めているところでございます。

また、後半に書いていただいているような首都圏や関東圏に対してのPRについてですけれども、メジャースポットの筑波山観光やアニメツーリズムとい

った企画については、新聞雑誌への広告掲載やＳＮＳ広告等による情報発信を図っているほか、先ほど申し上げた「つくばのおさけ推進協議会」やつくばの観光大使の方々が、首都圏のイベントに参加し、ＰＲを実施しております。

最後の方に、旅行会社や企業等とのタイアップということで御意見いただいている点につきましては、市内の旅行事業者と連携した事業としまして、市内の筑波山や科学といったメジャーな観光資源以外の掘り起こしを進めようということで、市内の周遊観光モデルコースを策定しまして、今年度はデモツアーや実施しているところです。その他、企業とのタイアップの事例としましては、つくば市内にサテライトオフィスを構えているアニメ制作会社のＷＩＴＳＴＵＤＩＯさんと連携して、アニメーションとのコラボ企画を筑波地区にあるジオミュージアムというところを中心に展開をしているところです。また、令和5年の12月頃から、今年の2月頃までには、同じようにアニメのスパイファミリーを素材にしたイベント等を実施していました。以上、補足として御紹介させていただきました。

○吉瀬座長

ありがとうございます。皆様もこういった観光資源はよく目にされていると思いますが、今の御説明に対して皆さんから御意見などありますでしょうか。

○飯野委員

つくば市のあり方検討会といったものを、つくばエクスプレスが1年ぐらい前に立ち上げていると思いますが、検討状況や結果が出ていれば、それを見ると、どうあるべきかという中身が見えてくるのかなという気がします。そういうものを参考に、つくばエクスプレスの本社ではどういうことをするのか、地元の我々はどういうことをするのか、ということが見えてくるような気がします。まずは、その辺の検討状況を把握できればよろしいのかなと思います。

○吉瀬座長

事務局からいかがでしょうか。

○事務局

御意見ありがとうございます。そのほか、つくば駅周辺を担当しております  
都市計画部においても、つくばセンター地区活性化協議会等に参画しており、  
そちらでも非常に有意義な議論が交わされているということですので、そうい  
った検討や取組とあわせまして、皆様の御意見を聞きながらまちづくりを進め  
ていければと思います。

○吉瀬座長

他にいかがですか。せっかく機会ですので。

○梅津委員

シンプルな質問で恐縮ですけれども、実は、私はつくば市が観光都市になる  
のは難しいなと少し思っています。筑波山というのは、もちろん観光というと  
出てきますが、それ以外で市として広報している観光地というか、観光資源と  
いうか、どういったものがあるのでしょうか。

○吉瀬座長

事務局からいかがでしょうか。

○事務局

御質問ありがとうございます。観光資源としましては、自然の資源というも  
ので考えますと、主に筑波山や牛久沼などの景観等が挙げられます。つくば市  
に人を呼び寄せる装置としましては、つくば市はやはり研究や科学のまちです  
ので、市内の研究機関が実施するサイエンスツアーや夏休み中の子どもたちを  
中心として非常に人気があり、市内外、県外からも集客を呼び込む能力を持っ  
ていますので、そういうものをあわせて、つくば市に人を呼び込む仕組みと  
してとらえて、取組を進めているところです。

○吉瀬座長

貝塚委員、どうぞ。

○貝塚委員

観光コンベンション協会の貝塚と申します。事務局から御説明いただいた事業もすべて当協会が市と一緒に取り組んでおります。確かに、立原委員がおっしゃるように、つくばエクスプレスが開業して今年で20周年になり、飯野委員からもお話があったように、TXの運行会社で、各駅のあり方であるとか、そういうしたものについてワークショップ等を開催しながら検討を進めていまして、当協会の役員もそのメンバーに入っております。実際にどういう取組をしていくかというのは、まだまだこれからですけれども、検討会の報告書を見ますと、ある程度方向性が出されたように感じます。やはりつくば駅は少し暗めに感じられますし、研究学園都市としてのワクワク感が少ないなどの話も出ています。改札を出たところが、事務局からございましたように県道の扱いなもので、いろいろなお店の出店が自由にできません。今はスターBACKSさんやお土産物さんがありますが、一時的な占用物件という形になっています。例えば、もう少し多くの物産を販売できるとか、つくばのおさけというものを当協会でPRしていますので、お酒が飲めるスタンドが今も少しありますので、それをもう少し拡充するであるとか、電車を降りてつくばらしさ、少しワクワクするような感じになればいいなというところで、協会でも市やTXの運行会社などと、一緒になって盛り上げていこうと考えております。

それから観光資源につきまして、確かに筑波山がどうしてもメインになってしまいますけども、南の方には牛久沼があります。市観光推進課では、「おでかけ journey」という周遊モデルコースを作成していて、もちろん筑波山をめぐるコースもありますけれども、市内の古くからある街並みやお店などを回るコースが4つのテーマのもと用意されています。いわゆる観光地のようなスポットではないですが、田園風景であるとか、里山であるとか、公園などを回るモデルコースです。そういうところをつくばの魅力スポットとして、もちろん市外にもPRしているところですが、つくばエクスプレスが開業して以降、つくば市に多くの方がお越しになられまして、そうした新しく市民になられた

方々にも、つくばの良さというものを知っていただきたいと考えていますので、市民の方向けに市の魅力をPRする取組についても力を入れているところでございます。長くなりましたが、以上です。

○吉瀬座長

ありがとうございます。大変貴重な御意見をいろいろといただくことができたと思います。他にも御質問いただいているので、次の質問に移らせていただきたいと思います。続いて、星隈委員から御意見・御質問いただいているかと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○星隈委員

筑波研究学園都市交流協議会の代表で来ております星隈と申します。我々も研究機関ですので、こうした事業評価や政策評価など、似たようなことをしておりますが、実績の数値を見させていただいたときに、例えば、交通インフラの政策で、基本施策II-5のKPIが達成状況としては遅れになっていますけれども、個別施策としては順調や概ね順調ということで、上流側の基本施策の評価と個別施策の評価がズれているというようなものがございまして、これはどう捉えればいいのかというのが質問になります。今後の施策の立て方などの点で教訓があるのかどうか、その辺をお伺いしたいと思いました。

あわせて、インフラ関係でございますけれども、個別施策II-4-④というのがございます。こちらは0という数字が5年間並んでいるということで非常に目立っています。進捗管理という意味ではうまく進捗しなかったということになるのではないかと思います。一方で、最近は八潮市で下水道管の老朽化に伴う道路陥没ということも起きてまして、下水道管路の点検においても新しい技術を使わないとなかなか難しいということで、多くの地方自治体が困りながらもいろいろな技術を使いながら進めているという状況もある中ですので、この5年間なかなか進捗できなかった原因を分析していく必要があるのかなと思いながら、この数値を見ていたところでございます。もし原因がわかれれば、そ

れを分析した振り返りを今後の取組に生かすといいのではないかなど思いまして意見を出させていただきました。以上です。

○吉瀬座長

どうもありがとうございます。まず事務局の方から御回答あればよろしくお願ひいたします。

○事務局

指標の設定状況とその結果について、基本施策の指標が順調であってもその下の指標が順調でなかったり、またはその逆であったりというような関係性になっているというのが、1つ目の御指摘だったかと思います。

おっしゃるとおり、第2期戦略プランでは、17個の基本施策を推進するために、その下に個別施策というものを設定しておりますので、それぞれの指標につきましても、個別施策の指標が順調であれば、基本施策の指標も順調に推移するといったような関係性が望ましいと考えております。しかし、実績を振り返ってみると御指摘のとおり、そういった関係性になっていない施策や指標が見られております。未来構想と戦略プランで示す未来像の抽象度が高く、かつ重点的な施策を分野横断的にまとめているというところで、特に広い分野を対象とする17個の基本施策におきましては、適切な指標設定がなかなか難しいという課題認識を我々としても持っていました。

昨年度策定した第3期戦略プランでは、基本施策ごとの指標というのは設定せずに個別施策単位で複数の参考となる指標を設定するようにいたしました。それら定量的な成果と個別の定性的な分析をあわせて取組の進捗状況を今後、把握していく予定であります。また、その施策の下の細かい事業単位では、上の個別施策に設定した指標に貢献できるような、指標の設定ですとか事業の設計を内部で行っているところです。

2つ目にいただいた、公共施設やインフラ関係の実績につきましては、おっしゃるとおり、指標の実績値として正式に導入した数は0件が続いているよう

な状況となっております。一方で、公共インフラの劣化損傷具合の点検等に新しい技術を活用する実証実験であれば、数件実施されておりました。ただ、実証実験の結果を踏まえた本格導入のような形には至っていない状況です。市の課題解決に繋がる技術的なレベルに至っていない、直接的に繋がる技術ではなかったという点や、新技術を導入する際には、業務フローやオペレーションなどを大きく変えなければならないということで、市としての人的なリソースや財政的なリソースをなかなか捻出できないというような点も課題として残っております、今のところは現場への導入に至っておらず、0が続いているような状況となっております。以上です。

○吉瀬座長

どうもありがとうございます。星隈委員、いかがでしょうか。

○星隈委員

つくばには様々な研究機関がございまして、新技術の開発あるいは施策を進めるための研究を進めている機関もあります。こうした研究機関のお膝元でもありますので、もしお悩み事等ありましたら、筑波研究学園都市交流協議会をはじめ、新技術の導入に当たっての技術的な課題等であれば、御相談にも乗れるのではないかと思いますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

○吉瀬座長

もしよろしければ、新技術の導入について、例えばどんな具体的な可能性があるかについても、御情報をいただけるとありがたいのですがいかがでしょうか。

○星隈委員

先ほど八潮市での下水道管老朽化の話をしましたけれども、全国で下水道管路の点検をこれから進めていかないといけないという中で、地中にある狭い管路で、人が進入することも困難なため新しい技術の活用が期待されています。例えば、下水道管の中で飛行できるドローンであるとか、あるいは小さな船の

ようなもので管路内の映像を撮影する技術があります。これらの技術を開発した各メーカーでも様々な検証を行い、国がそれらの性能をカタログのような形でまとめ、ホームページ等でも公表しています。そして、管路を管理している自治体は、そのカタログの中から現場のニーズに合った技術を選べるようになっています。なお、私が所属している研究所では、大型の下水道管路の試験施設があって、新技術の検証などでも実際に利用されています。つくば市でもこのような新技術にご関心があれば御観察いただいて、今後の施策推進の参考としていただけることもできるのではないかと感じたところです。

○吉瀬座長

ありがとうございます。他に皆様から御意見いかがでしょうか。今、2つほど事前にいただいた御意見等を取り上げさせていただきましたけれども、立原委員からは、他にもたくさん御質問いただいているので、ぜひこれはというものがありましたら、おっしゃっていただけるとありがたいのですがいかがでしょうか。

○立原委員

ありがとうございます。私は進歩が遅れになっている施策について書かせていただいているので、特にどれがということではないのですが、市役所と市議会はそれぞれ独立した立場でありながらも、戦略プランを基盤として、連携して街をよくしていくべきと考えております。本日は市議会からお二人いらっしゃっているので、関連して意見させていただきます。これまでに何度も市議会議員選挙がつくばでも行われていますが、公約などで重点項目として掲げられているものがどのくらい進歩しているかということを、近しい政策を掲げた方同士で集まっていたらしく、確実に進めるような方策を持っていただきたいと思っています。毎回の選挙で、各候補が同じようなことをおっしゃるので、結局市民から見てもどう進んでいるのかがわからない。子育てや教育関係は毎回多くの候補者が打ち出していますし、教育は県との関係も出てくるので市議会

だけではなかなか難しいとは思いますが、それぞれのテーマを少しでも進められるように、進めていただきたいという思いがあります。

○吉瀬座長

では、市議会の方から、よろしければいかがでしょうか。

○黒田副座長

貴重な御意見ありがとうございます。私の意見になりますが、例えば、この10年間で議会の委員会で集中審議をするとか、テーマを設定して、その進捗を確認するとか、執行部に提言するという取組を行っています。議員は、所属政党を含めて各々立場が違いますけれども、そうした中で合意形成を図れる部分について議論をしていくという仕組みは、委員会の中で作ってきたところです。それと、例えば似たような考え方を持つ議員は、会派というものを議会の中で組織しまして、会派の活動ややり方はそれぞれの手法がありますけれども、その中で政策の実現に取り組んでいます。あともうひとつ、議会は合意形成を図る面もあれば、お互いの意見を戦わせる部分もありますし、似たような政策だけれども、政治的に譲れない部分などもありますので、御提案のような仕組みは、個人的には少し難しい部分もあるかなという印象です。ただやはり、選挙などでまちの課題は何かというと、子育てとか教育とか共通するような課題が出てきて、それに対して各候補者が取組ますと掲げているというのは、おっしゃるとおりかと思います。現在取り組んでいることとしますと、議会カフェなどで住民の皆様の声を聞いて、それを委員会に落とし込んで視察先を選ぶ参考にするとか、委員会を絡めて提言を行うといった取組を進めているところです。

○小森谷委員

御意見ありがとうございます。つくば市戦略プランは執行部のプランなので、そこに議会のことを入れるという新しい意見だなと思いまして、どうやつたら整合性を図りつつ入れられるだろうというところを想像しながら、黒田副

座長のお話を聞いていました。市議会としては、市民の方に参加いただいて議論するような、黒田副座長がおっしゃった議会カフェですか、調査として、様々な団体に出かけてお話を伺うということもやっていまして、議会は議会で頑張りつつ、市行政と両輪で政策を進めている中で、どこかで交わる部分があればいいではないかという御意見だと思いながら伺っていました。今後も一緒に考えていただけたらありがとうございます。ありがとうございます。

○吉瀬座長

どうもありがとうございます。皆さんもまだたくさん御質問をお持ちだとは思いますけれども、後日、書面でも御回答いただけるということですので、申し訳ありませんが次に進ませていただきたいと思います。

○事務局

そろそろ14時になりますので、冒頭に申し上げたとおり、1度休憩時間を設けたいと思います。14時5分までにお席にお戻りください。

○吉瀬座長

それでは議事を進めさせていただきます。議事「(3)デジタル田園都市国家構想交付金事業の進捗状況について」事務局からご説明ください。

○事務局

【議事(3)について説明】

○吉瀬座長

どうもありがとうございました。個別の具体的な事業ですので、皆様からも事前に御質問をいただいており、事業の説明を踏まえ、さらに御質問のある委員の方も多いかと思いますが、まず事前にいただいた御質問を取り上げさせていただきたいと思います。まず布浦委員よりインターネット投票の進捗状況についてということですが、御説明と御質問をお願いできればと思います。

○布浦委員

ただいま御説明いただきましたのでより詳しく理解することができました。

ただ、スーパーシティの武器といいますか、その中に入っている事業かと思いますが、インターネット投票について市長選の件もありましたが、これができなかつたということもありまして、現在の進捗状況をお知らせいただければと思います。

○吉瀬座長

デジタル政策課でしょうか。よろしくお願いします。

○デジタル政策課

インターネット投票の進捗ということですが、まずインターネット投票の取組については、実証実験などを重ねて、一番大きなポイントとしては、所管省庁である総務省との公職選挙法の改正等についての議論を進めておりました。総務省の見解としては、各党各派会派の意見をまず聞かなければということで、その公職選挙法改正については見送ることになっておりました。ですので、2024年の市長選挙には間に合わなかつたというのが現状です。

進捗については、実証実験という形で、昨年度は参加型のインターネット投票を市民限定で、実際に写真映えするスポットの投票、市長の行政運営評価、スーパーシティで実現して欲しいサービスの計3回実証実験を行いました。その趣旨としましても、インターネット投票を実際に皆さんに体験していただきたい、どういうものかというものを実感していただくとともに、自分事としてとらえて、インターネット投票自体についても考えていただくきっかけを作ればと思って行っておりました。

今年度についても引き続き3回行う予定で、現在もみんなで創る森プロジェクトというものを9月16日から来月の10月13日までの間で行っておりますので、御興味があればぜひやってみていただければと思います。あの残り2回について主な時期と内容については未定ですが、そのうちの1回については、市民の中から2万人を無作為抽出させていただきまして、入場券のようなものを送らせていただき、そこからスマートフォンを通して、インターネット

投票に進んでいただいて投票してみるという、実際の選挙を模した形で、実施してみたいと思っております。なので、まずこれで皆さんに実際に体験していただきながら、自分事としてとらえていただくなきつかけになればと思っております。

○布浦委員

はい、ありがとうございました。やはり総務省が関係しているということは承知しておりました。実証実験のはしりに、茨城県立並木中等教育学校の生徒会選挙をインターネット投票でやっておりますよね。あのときは、投票率が100%という実績が出ておりました。これを実際に市民に置き換えることはなかなか難しいということはよくわかっております。これはアメリカでも、1つの州でしか取り入れられていない非常に難しいことだろうとは思いますが、つくばらしい先進的な技術を持っているわけですから、進めていただきたいと思います。ありがとうございました。

○吉瀬座長

ありがとうございます。立原委員からもインターネット投票については御質問いただいているが、いかがでしょうか。

○立原委員

今おっしゃっていた通りの考え方で、つくばらしい先進的なものだと思うのでぜひ実現していただきたいなと思います。

○吉瀬座長

ありがとうございます。次の御質問に移りたいと思います。また、立原委員からいただいた御質問で、続けていろいろと御質問お願いできればと思います。モビリティサービス基盤の構築に関して牛久市の行政などの情報も加えて御質問いただいているが、よろしくお願ひいたします。

○立原委員

知人が牛久市の市政に関わっておりまして、牛久でも大変課題に感じている

ということで聞いています。表にもありますが45ページの利用者数の達成率が8.8%なのですが、リピート率の達成率が123%、満足度の達成率も77%、継続利用意向の達成率も156%ということなので、利用者層をどうやって作つていくかっていうところが、まだ不足しているのではないかと思います。主に高齢者が使うということを考えると、例えばですけど、病院にディスプレイを市で置かせてもらうとか、まだ使いたい人に接触ができていないのではないかと考えるので、どういうふうに市で周知していくかはすごく大事なところかなと思っているので、質問させていただきます。

○吉瀬座長

ありがとうございます。総合交通政策課、よろしくお願ひいたします。

○総合交通政策課

地域連携公共ライドシェアは、つくば、土浦、下妻、牛久の4市で行っていますが、御指摘のとおり、牛久に関しては利用実績が少なく、運行を開始した1月27日から8月31日までの利用人数が、延べ76人の利用でそこまで伸びていません。つくばについても、つくば・土浦エリアは203人で、もともと想定していた人数よりも少ない状況です。この件については、御指摘のとおり周知が不足していることが要因の1つであると考えており、つくば・土浦エリアに関しては、住民を対象とした説明会やアンケート調査の実施を予定しています。筑波山エリアについては、引き続き現地でポスター設置を進めるほか、乗り場が6か所だけなので、本来バーチャルバスストップであるところ、物理的なバス停を設置することによって、ライドシェアのことをよりわかりやすく周知することも今後検討していきたいと考えています。

○吉瀬座長

立原委員から御意見があったディスプレイの設置などということで、例えば、病院などでも会計で待っている時間などは大変退屈なので、そのようなときに少しでも皆さんへ情報共有できたらいいかなというふうに思いますので

ぜひ進めていただければと思います。

続けて、つくば市ポータルアプリ整備事業についても、御提案ご意見をいただいているかと思います。よろしくお願ひいたします。

○立原委員

ポータルアプリですが、私は自治会の区長をしておりまして、今まで市の方に直接電話をして、例えば街灯や防犯灯が切れていますよということをお伝えしてきたのですが、つくスマのアプリということで、今、窓口が二本になっていることを心配しています。それにより、対応が煩雑になっているのではないかという懸念もしています。ゆくゆくはアプリに一本化したいのかなというところもあるのではないかと思うのですが、どういう方向性を持っていくのか教えていただきたいです。

○吉瀬座長

デジタル政策課かと思いますが、よろしくお願ひいたします。

○デジタル政策課

御質問ありがとうございます。つくレポの通報機能についてですが、従来、道路や公園の管理を所管する課などについては、区会や区長さんからの要望・相談を、電話や書面で連絡を受けておりました。それと同時に、個人で市民の方から、街中での気づき、例えば、道路の破損や、先ほどおっしゃっていた街灯の球切れなどについても、電話などで連絡を受けておりました。その中で、つくレポの通報機能については、後者の個人からの連絡通報というものを対象にしまして、今まで電話で受けていたもので特に街灯だとか、防犯灯などについては、夜に気がついて、伝えようすると、場所が電話だとなかなか担当者に伝わらなかったり、現場に行くのが夜になってしまったりと、対応がなかなかに困難だということがありました。それをつくレポというつくスマに搭載された機能を使い、位置情報と写真で連絡をすることで、場所と状況を目で見ることができるために、その点については、担当課から一定の評価をもらっておりま

す。今後については、区会の方と個人からの連絡をアプリに一本化するというような方針はなく、個人の方からの電話での通報というものをアプリに寄せて、電話で対応する時間となるべく短くすることで、迅速に対応できるように、あとは、できたら通報データを蓄積し、今後の道路改修、あるいは防犯灯や街灯などの計画策定に役立てていければと考えています。

○立原委員

はい。ありがとうございました。

○吉瀬座長

ちなみにこの中でつくスマをダウンロードされてらっしゃる方、もしよろしければ手を挙げていただいても、よろしいですか。飯野委員はどんな感じで使われておられますか。

○飯野委員

いろいろな情報をいただいている。

○吉瀬座長

他に手を挙げていただいた方、どんなときに使われているか、どうぞお願ひいたします。

○ 立原委員

私もいろいろな情報を収集していますが、資料を見て初めてこういう使い方をしているのだなっていうところがわかったので、周知をさらに進めていただけるとありがたいなと思います。

○吉富委員

たくさんは使ってないのですが、図書館のカードがこちらに移行したので、便利だなと思って利用させていただいている。あと何か気づかないうちにいろんな情報が入ってきていて、会議の情報や催し物の案内が随時送られてくるので、自分ではわざわざ市のホームページに普段アクセスして検索をかけなくても、自動的に情報が入ってくるのですごくいいなと。自分の興味があるもの

に参加できていたという感じで利用させていただいております。まだまだ利用しきれていない感はありますけれど、すごく便利だと思っています。

○吉瀬座長

普及することを願います。他にどういったサービスがあれば使えそうかという御意見あれば、ぜひお聞かせいただければと思うのですがいかがでしょうか。どうぞお願いします。

○今林委員

事業の御説明を聞いて、こんな様々なイベントや催しがあったことを、今初めて知りました。ぜひ行ってみたかったなとか、今から行きたいなというところがあります。10年ほど前でしたら、地域にミニコミ誌などがあり、特に自分から情報取りに行かなくても周りに情報があったと思うのですが、今はSNS時代ということで自分から興味のある情報を取りに行かないと、情報が取れないということをひしひしと感じています。大きな情報はよく入ってくるのですが、身近に出かけられる情報が入らないと感じています。それで今まで初めてこのポータルアプリというものがあるってことを知りまして、このアプリを利用すれば、例えば今週末、どこか近くで行きたいなというときにそういう情報が見ることができるのか。それも市だけではなくいろいろな市民団体がされているような情報が見られたら大変嬉しくありがたいなと思ったのですが、そういう利用もできるのか、お伺いしたいと思います。

○吉瀬座長

デジタル政策課、いかがですか。よろしくお願いします。

○デジタル政策課

御質問ありがとうございます。つくスマでは、各種イベントとして庁内の担当課が行う主催イベントや、後援するイベントの情報が発信されております。御自身で関心のある、子育てとか防犯とか様々なカテゴリーがありますので、そこにチェックを入れていただければ、関連するイベント情報などが入ってき

ます。一方、民間のイベントについては、まだ不十分でして、例えばつくば市が何かしら後援するなど、関与するものであれば発信できますが、純粋に民間のイベントについては、まだ十分聞き取れていないので、今後の検討課題として捉えていきたいと思います。

○今林委員

ありがとうございます。可能でしたら、皆さんに来ていただきたいものがある場合、市民団体等の人からも情報を出せるようなものだと活性化するのではないかと思います。よろしくお願ひします。

○吉瀬座長

続いても御意見いただいている質問ですが、立原委員からはよろず相談所についての御質問をいただいているかと思います。こちらも御説明いただけますでしょうか。

○立原委員

29ページのスマホ講座について、よろず相談窓口を開設することはよいことだと思いまして、スマホアドバイザーとして大学生が派遣された人数の達成率が68%になっていますが、スマホ講座にだけに行こうとするとなかなか難しいのかなと思っていて、例えばおしゃべり会、社協がやっていて私も何回か行かせていただいたことがあるのですが、そういうところに行ったときに、そこでスマホ教室がやっているだとか、高齢者が集まりやすいようなところにセットで作るというのは、1つ方法としてあるのかなと思いました。

○吉瀬座長

どうもありがとうございます。こちらは科学技術戦略課の皆様、いかがでしょうか。

○デジタル政策課

こちらは今、デジタル政策課で業務を行っておりますのでこちらから回答させていただきます。スマホ教室については、まさにこれから募集をかけるとこ

ろですが、よろず相談所についてはスマホ教室の3回シリーズの2回目の後に1時間程度、相談を受けるという形を去年はとっていました。ですので、委員がおっしゃるようなイベントに付随して、何か相談所を設けるということは、去年は実施しておらず、今年の業務についてもすでに発注していますが、そのようなイベントに付随した取組については、考慮されておりません。次年度以降も実施するつもりではあるので、計画の中に盛り込めるかどうかを検討していきたいと思います。

○吉瀬座長

進めていただければと思います。続いて、事前にいただいた御質問では最後になりますがBMXについても続いて御質問いただけますか。

○立原委員

BMXなのですが、利用料収入の達成率が34.5%となっていて、単純に例えながらですが、空き家バンクと連携して、移住してしまえるほどBMXが好きな方を誘致してそこに空き家とセットで移住してもらい、その方に少し利用料を安くしてでも使っていただくことで34.5%が少しずつ増えてくるのかなと考えました。

○吉瀬座長

サイクルコミュニティ推進室でよろしいでしょうか。お願ひいたします。

○サイクルコミュニティ推進室

BMXレーシングの大会誘致のほか、市民の皆様に自転車競技に興味を持っていただるために、この施設の広報を実施し、初心者向けの体験会やスクールなどを実施しているところです。当室としましては、ぜひ市民の皆様にこの施設を知っていただきて、まずはこの施設に来ていただいて、体験していただいたり、あるいはこの拠点に来ていただいたついでに周辺地域にご飯を食べに行つていただいたりとか、観光に行っていただいたりとか、事業としてそういうしたものもぜひ進めたいと思っております。なお、先ほどお話がありました

件について、この施設につきましては市民の方は、市外の方より、料金が安く設定されておりますので、つくば市民になっていただければ、より良い練習環境になっていると思っております。

○吉瀬座長

今の点について、よろしいでしょうか。

○立原委員

ありがとうございます。

○吉瀬座長

ほかの委員の皆さんからはいかがでしょう。何か御意見をお持ちでしたらぜひお聞かせいただければと思います。まだ御発言いただいている委員の皆さんもいらっしゃるのでぜひ御意見いただきたいと思うのですが、今のいただいた御質問以外でも結構です。

飯島委員いかがでしょうか。ぜひ御意見、御質問等ありましたらよろしくお願ひいたします。

○飯島委員

今日はありがとうございます。初めての参加だったのですが、大変勉強になりました。先ほど、つくスマをインストールさせていただきまして、これがサービスというかDX化のトータルになると思いますので、これの周知をもっともっとしていってもいいのかなと感じました。これを通じて色々なサービスの拡充が図られていくのだろうなと思いますので、私も含めPRをしていきたいなと思います。よろしくお願いします。

○吉瀬座長

私もそうなのですが、まだ何もないときにダウンロードしちゃったものですから。新しいものにスパッと飛びつくのですが、早過ぎて、何が新しいのかわからないまま入れたままになっていて、久しぶりに開けると急にサービスが増えている。アプリを開けていただくタイミングとしてつくば市の行政と我々で

そこにアクセスしないとわからない情報とかをぜひ入れていただけるといいのかなと私も思いました。ありがとうございます。

小島委員いかがでしようか。

○小島委員

いろいろな事業について、私もいろいろ勉強させていただきましてありがとうございます。1つお聞きしたい点としましては、KPIの目標値、いろんな事業の目標値なのですが、これはどなたがどんな過程・どんな手段で目標値を定めているのか疑問に思いました。

○吉瀬座長

事務局、よろしくお願ひします。

○事務局

各事業において担当部署が決まっておりまして一番はじめの申請時に5年間の事業だったら5年間分のKPIを設定しています。国への申請は各年度で申請になりますので、2年目以降、数値を変更して、変更申請という形も可能な形になっておりますが、基本的には最初に設定したKPIを目標に事業を実施していくという形で進めております。

○小島委員

はい、ありがとうございます。項目によってはちょっと厳し過ぎるというのもあれば、ちょっと忖度して低くやっているのかなと思われるものがあり、ちょっとばらつきがあったりする気がして、その点が疑問に思ったので質問させていただきました。ありがとうございます。

○吉瀬座長

そうですね。かなり厳しいところと緩やかなところと、ばらつきあるかと私も思いました。あわせて、例えば、今回の補足資料の39ページについて、先ほどの説明を伺いますと、A I オンデマンドの送迎配車の実績が未計測だったことから0になっていますが、未計測の場合はハイフンで表記していただける

とありがたいと思います。計測して0というふうに見えててしまうので、非常にマイナスなイメージも与えてしまいます。統計的にも意味が違いますので、0ではなくて未計測の場合はハイフンで標記をするなどデータの管理もぜひ統一していただけだとありがたいと思いました。

続いて、後藤委員、いかがでしょうか。

○後藤委員

障害者福祉関係の項目がⅡ-1-⑤に当たるかと思いますので、こちらについて意見を言わせていただきたいと思います。障害者雇用率の従前値2.25%が2024年には2.70%になっていて、最終目標値が2.40%なので「順調」という評価となっています。一方で、その下の障害者優先調達法に基づいた物品及び役務の調達額は、従前値の659万3,138円から2024年は796万5,305円と、結構上がり下がりがありながらも上向いているので、頑張っているのではないかと思うのですが、最終目標値が1,000万円ととても高いので、評価が「やや遅れ」になっています。障害者雇用率の方は目標値が低いのかどうかわからぬですが、2022年にはもう軽々と達成できている一方で、下の優先調達の方も頑張ってはいるけど目標は未達となっている状態に違和感がありました。

○吉瀬座長

いかがでしょうか。担当の方はいらっしゃいますか。

○事務局

事務局からお答えします。こちらの障害者関係の施策について、障害者雇用率は障害者雇用促進法に基づく基準の数値を参考に目標値を定めており、優先調達額は過年度の実績を参考に目標値を定めています。障害者雇用率の方は比較的順調に推移している一方で、優先調達額については、市役所内部でも積極的に活用するよう定期的に周知されていますが、つくば市から発注したいもののものと、各団体が提供可能な作業や納品できる品物がうまくマッチすることが難しい場合もありますし、それによって数字が伸びる年度とそうではない年

度が出てしまっている状況があります。目標が高いこともあります、障害者の労働に対する対価を上げていく必要があるという市役所の姿勢は変わらず、担当部署も引き続き取組を進めていますので、数字の推移を見守っていただきたいと思います。

○後藤委員

ありがとうございます。もう 1 つ言わせていただけたらと思うのですが、先ほどジオパークと BMX レーシングの拠点について、周りでお買い物をしたり、ご飯を食べたりとおっしゃっていたかと思います。私は筑波東中学校の卒業生なのですが、正直、あの辺りはラーメン店が 1 件あるくらいで他には何もなくて、私も用がなければ行かないくらいです。加えて、お買い物するところも、スーパーが 1 件あるだけです。先ほど、別の件でも目的が 1 つではなくて、抱き合せで 2、3 個あればよいというお話があったと思います。最近、道の駅が下妻寄りの方にできる案があるというのを見たのですが、そこからもこの拠点までは大分離れているので、両方行く人というのはあまりいないのではないかと思います。例えば、遠くからお客様が来たり、お友達につくばの特産品送ったりしたいときにすごく悩むので、つくばの特産品がまとめて置いてあるお店があって、複数の目的の抱き合せができた方が、せっかくできたジオパークや自転車の拠点にも、いろんな方に来ていただくことができるのではないかと思います。遠目で見ている印象ですが、筑波山からも離れていて通り道でもないところなので、自転車で遠くまで行けるような人か、車に自転車を積んでいるような人しか来ないのかなと感じています。

○事務局

御意見ありがとうございます。御指摘のとおり 1 つの観光地点に関して、回遊性など他の地域との連携を求められるということは、つくば市としても重要な課題の 1 つとして考えております。拠点は筑波東中の跡地にできましたが、近くの北条商店街などの北条地区については、周辺市街地振興課で R 8 として

周辺市街地を中心としたまちづくりを進めております。なお、つくばジオミュージアムでは、小規模ではありますが、筑波山地域ジオブランド認定商品をはじめ、アニメ制作会社 WIT STUDIO のグッズ等、つくばのお土産品を販売しています。御指摘いただいた道の駅は、池田という地域で検討していますが、筑波山や筑波山周辺に点在するワイン、日本酒、クラフトビールといった、観光資源とあわせながら考えるのが重要だと思っています。それぞれの距離が離れていますので、移動の足も大きな課題になるかと思いますが、周遊効果が出せるように取り組んで、地域の観光を生かせるような形で進めていければと思います。御意見ありがとうございます。

○吉瀬座長

続いて細谷委員、いかがでしょうか。御覽になっていて、御質問なり、コメントなり、いただけるとありがたいです。

○細谷委員

2020年からの計画ということで、新型コロナウィルス感染症の影響が、当然、計画段階あるいは実施段階にあったかと思いますが、目標や実績評価などで修正がかかったというような状況がありましたら、教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○事務局

細谷委員のおっしゃるとおり、計画を策定する最終段階で徐々に新型コロナウィルス感染症の影響が出始めまして、我々としても目標値等の修正については非常に悩んだところでございます。ただし、その時点で、どこまで影響が出て、何年続くのかという点が見通せなかつたということがありましたので、最終的な目標値の変更は見送りました。結局、影響が小さくなるまでに3、4年近くかかってしまったので、5年間の計画のうち3年程度は大きく影響を受けてしまっています。あくまで、この計画はつくば市の現状を踏まえた目標として、5年間どうあるべきだったかというものである点を考えると、急に動かす

べきではないだろうということで数値を維持しました。それらの点も踏まえて、第3期戦略プランを策定し、新たに指標や目標値を設定しています。今回は安定した5年間を過ごせるとよいと思っております。

○吉瀬座長

ありがとうございます。野口委員、いかがでしょうか。

○野口委員

参加させていただいて、知らないことを学べてよかったです。アプリもまだダウンロードしていないので、帰ったらダウンロードして、商売をやっていますので、そちらからも広めていけたらと思っております。

気になった点としまして、前半部分で、こどもも親も楽しく育つ環境をつくるという施策やこどもを安心して生み育てられる環境整備という施策がありました。国や県との連携になるので難しい部分もあると思いますが、子育てをしている身として、子どもが近くの高校行けるかどうか、遠い高校だと行き帰りの事故とかが心配だなと思いながら、子育てをしています。少し調べたら、千葉県は市立の高校が多いことが分かりました。茨城県の方でも、つくば市立高校を作るなら協力するというような記事も見たことがあったので、ここで言うべきかどうかわかりませんが、希望としては、利便性のいいところに高校があればありがたいなと思っております。

○吉瀬座長

これはいろいろなところから御意見があるかと思いますが、市議会の方から何かありますか。

○黒田委員

事実を申し上げますと6月議会で県には、県立高校作ってくださいという意見書は出させていただいたのですが、なかなか県の方でも事情があるということです。引き続き皆様の御意見を伺いながら、市議会としてもやるべきことをやっていきたいと思っております。

○吉瀬座長

ありがとうございます。長時間になりましたけれども、かなり時間が押して参りましたので以上で御質問等については、1回締め切らせていただきたいと思います。他の御質問についても書面でご回答いただけると伺っております。先ほど細谷委員がおっしゃった御指摘のように、私も2020年ぐらいから、拝見させていただいているけれども、当初は本当に苦しい形で、コロナできませんでしたし、コメントもなかなか出しにくいものでした。それが、今年2025年になってかなり活発に皆様から御意見をいただくことができ、そして、市からもこれだけ実績ありますと言っていただけるようになったというのを、本当にありがたいことだと思っております。これを続けて第3期の方も、続けて進めていただきたいと思いますので、皆様もご支援をいただければと思います。私から以上にさせていただきまして、事務局に進行をお返ししたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○事務局

皆様、長時間にわたりまして御議論ありがとうございました。いただいた御質問で今日取り扱えなかったものにつきましては、後程書面で皆様に共有させていただきます。また、本日の会議録につきましては事務局で案を作成後、委員の皆様に御確認の依頼をさせていただきます。その結果を反映した上で、市のホームページで公開いたします。それでは以上をもちまして閉会いたします。皆様、ありがとうございました。

# 令和7年度つくば市未来構想等推進会議 会議次第

日時 令和7年（2025年）9月25日（木）13:00から  
場所 つくば市役所 コミュニティ棟 会議室A・B

## 1 開会

## 2 座長及び副座長選出

## 3 議事

- (1) 第2期つくば市戦略プランの進行管理について【報告】
- (2) 第2期つくば市戦略プランの実績について【報告】
- (3) デジタル田園都市国家構想交付金事業の進捗状況について【審議】

## 4 閉会

### 配付資料

- 基礎資料1 つくば市未来構想等推進本部設置要綱
- 基礎資料2 つくば市未来構想等推進会議設置要項
- 基礎資料3 つくば市未来構想等推進会議委員名簿
- 参考資料1 つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例
- 参考資料2 会議の非公開に関する条件（抜粋）
- 資料1 第2期つくば市戦略プランの進行管理について
- 資料2-1 第2期つくば市戦略プラン 令和6年度実績総括
- 資料2-2 第2期つくば市戦略プラン 基本施策及び個別施策 指標一覧
- 資料3 デジタル田園都市国家構想交付金事業に付随する重要業績評価指標（KPI）の評価シート

つくば市未来構想等推進本部設置要綱

平成27年2月6日

告示第185号

(設置)

第1条 社会、経済等の情勢変化に的確に対応し、諸課題を克服しながら次の世代に継承し、発展させていく「持続可能都市」を実現するとともに、まち・ひと・しごと創生を推進するため、つくば市未来構想等推進本部（以下「本部」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 本部の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) つくば市未来構想及びつくば市戦略プランの推進及び進行管理に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、つくば市未来構想及びつくば市戦略プランに関する施策で重要なものの企画及び立案並びに総合調整に関すること。

(構成)

第3条 本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって構成する。

- 2 本部長は、市長をもって充てる。
- 3 副本部長は、副市長及び教育長をもって充てる。
- 4 本部員は、別表に掲げる者をもって充てる。

(本部長及び副本部長の職務)

第4条 本部長は、本部の事務を総括し、所部の職員を指揮監督する。

- 2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故があるときは、本部長があらかじめ指名する副本部長が、その職務を代理する。

(会議)

第5条 本部の会議は、本部長が必要に応じて招集し、主宰する。

- 2 本部の会議は、本部長が必要と認めるときは、当該審議事項に関係のある構成員のみで開催することができる。
- 3 本部長は、必要があると認めるときは、本部の会議にその構成員以外の者を出

席させ、意見又は説明を求めることができる。

(推進会議)

第6条 本部長は、本部において協議する事項について、広く関係者の意見を反映するため、本部に推進会議を置くことができる。

2 推進会議の設置、構成及び運営に関し必要な事項は、本部長が別に定める。

(専門部会)

第7条 本部長は、本部において協議する事項について、調査及び検討を行うため、本部に専門部会を置くことができる。

2 専門部会の設置、構成及び運営に関し必要な事項は、本部が別に定める。

(庶務)

第8条 本部の庶務は、政策イノベーション部企画経営課において処理する。

別表（第3条関係）

市長公室長 つくば市行政組織条例（昭和62年つくば市条例第55号）第2条に定める部の長 つくば市水道事業及び下水道事業設置等条例（平成14年つくば市条例第59号）第3条第2項に定める部局の長 会計管理者 教育局長 消防長 議会局長 選挙管理委員会事務局長 監査委員事務局長 農業委員会事務局長
--

## つくば市未来構想等推進会議設置要項

### (設置)

第1条 つくば市未来構想等推進本部設置要綱（平成27年つくば市告示第185号）第6条第2項の規定に基づき、つくば市未来構想等推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

### (構成)

第2条 委員は、次に掲げる者のうちから本部長が委嘱した者をもって構成する。

(1)市民

(2)産業、金融、労働、言論のいずれかの知見を有する者

(3)学識経験者、公共的団体の職員又は市議会議員

2 委員の任期は依頼年度の年度末までとし、任期の途中で委員の交代があった場合は、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

### (座長及び副座長)

第3条 推進会議に、座長及び副座長を置く。

2 推進会議の座長及び副座長は、委員の互選により定める。

3 座長は、議長として推進会議の議事を総理する。

4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときは、副座長がその職務を代行する。

### (オブザーバー)

第4条 推進会議にオブザーバーを置くことができる。

2 オブザーバーは、推進会議に出席し、議事に関する助言又は協力をを行うものとする。

### (会議)

第5条 推進会議の会議は、座長が招集する。

2 座長は、必要があると認めるときは、推進会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

### (庶務)

第6条 推進会議の庶務は、政策イノベーション部企画経営課において処理する。

### (補則)

第7条 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営等について必要な事項は、別途協議の上定めるものとする。

### 附 則

この要項は、決裁の日から施行する。

## つくば市未来構想等推進会議 令和 7 年度 委員名簿

No.	所属	役職	氏名
1	つくば市議会	議長	黒田 健祐
2	つくば市議会	副議長	小森谷 さやか
3	常陽銀行	研究学園都市支店長	飯島 寛志
4	公益財団法人つくば文化振興財団	理事長	飯野 哲雄
5	茨城県社会保険労務士会	副会長	小島 康夫
6	一般社団法人つくば観光コンベンション協会	事務局長	貝塚 厚
7	つくば市福祉団体等連絡協議会	会長	後藤 真紀
8	特定非営利活動法人まとーん	理事	中井 聖
9	一般財団法人つくば市国際交流協会	理事長	布浦 万代
10	つくば市記者会	茨城新聞社 土浦・つくば支社長	細谷 あけみ
11	筑波研究学園都市交流協議会	企画調整委員会委員長	星隈 順一
12	つくば市商工会	事務局長	本田 晃一
13	筑波大学	システム情報系社会工学域 教授	吉瀬 章子
14	市民委員		今林 弓子
15	市民委員		梅津 努
16	市民委員		立原 宏昌
17	市民委員		中山 恵美
18	市民委員		野口 忠幸
19	市民委員		吉富 久美子

## ○つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例

平成 29 年 12 月 22 日

条例第 35 号

### (目的)

第 1 条 この条例は、附属機関の会議及び懇談会等を公開すること等により、市政運営における透明性の向上を図り、及び市民の市政運営に対する理解を深め、もって開かれた市政の一層の推進に資することを目的とする。

### (定義)

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

当会議は  
懇談会に  
該当

(1) 附属機関 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項に規定する附属機関をいう。

(2) 懇談会等 市民、有識者等のうち執行機関が選任した者から意見、知見等を聴取し、市政運営の参考とすることを主な目的として開催する懇談会、懇話会、検討会、研究会その他市政運営上の会議をいう。

(3) 執行機関 地方自治法第 138 条の 4 第 1 項の規定に基づき市に置かれる執行機関のうち附属機関の属する執行機関又は懇談会等を開催する執行機関をいう。

### (会議公開の原則)

**第 3 条 附属機関の会議及び懇談会等は、これを公開する。**

### (非公開とができる会議)

第 4 条 前条の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当するときは、執行機関又は附属機関若しくは懇談会等の長は、附属機関の会議又は懇談会等の全部又は一部を非公開とすることができます。

(1) 会議において、**つくば市情報公開条例（平成 27 年つくば市条例第 27 号）第 5 条に規定する不開示情報**（以下「不開示情報」という。）が発言される見込みがあるとき。

(2) 会議を開することにより、公正又は円滑な会議の運営に著しい支障が生じ、会議の目的が達成されないと認められるとき。

### (会議の非公開の決定方法)

第 5 条 前条の規定による附属機関の会議及び懇談会等の非公開の決定は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める方法により行うものとする。

(1) 前条第 1 号に該当するおそれがあるとき 次のいずれかの方法

ア 執行機関が規則で定める事項を勘案し、決定する方法

イ 附属機関又は懇談会等の長が当該附属機関の会議又は当該懇談会等に諮り、規則で定める事項を勘案し、決定する方法

(2) 前条第 2 号に該当するおそれがあるとき 附属機関又は懇談会等の長が当該附属機関の会議又は当該懇談会等に諮り決定する方法

### (会議開催の事前公表)

第 6 条 執行機関は、規則で定めるところにより、附属機関の会議及び懇談会等の名称、

会議は原  
則公開  
で、非公  
開に該當  
しないこ  
とを当日  
確認予定

参考資  
料2  
参照

## 参考資料 1

開催日時その他の規則で定める事項を当該会議を開催する日の 7 日前までに公表しなければならない。ただし、緊急に附属機関の会議又は懇談会等が開催されるときは、この限りでない。

### (会議の傍聴等)

第 7 条 附属機関の会議及び懇談会等を傍聴することができる者の数は、その都度、執行機関が定める。

2 附属機関の会議又は懇談会等を妨害し、又は人に迷惑を及ぼすと認められる者その他の規則で定める者は、当該会議を傍聴することができない。

3 附属機関の会議又は懇談会等を傍聴する者（以下「傍聴人」という。）は、規則で定める事項を遵守し、及び会場の秩序維持に関して附属機関又は懇談会等の長の指示に従わなければならない。

4 附属機関及び懇談会等の長は、傍聴人が前項の指示に従わないときは、当該傍聴人に対し、退場を命ずることができる。

### (会議資料の閲覧)

第 8 条 執行機関は、附属機関の会議及び懇談会等が公開されるときは、当該会議の資料（不開示情報が記載されているものを除く。以下同じ。）を傍聴人の閲覧に供しなければならない。

### (会議録の作成)

第 9 条 執行機関は、規則で定めるところにより、附属機関の会議及び懇談会等について、公開又は非公開にかかわらず、当該会議終了後遅滞なく会議録を作成しなければならない。

### (会議録の写し等の公表)

第 10 条 執行機関は、規則で定めるところにより、公開の附属機関の会議及び懇談会等にあっては前条の規定により作成した会議録及び当該会議の資料を、非公開の附属機関の会議及び懇談会等にあってはその概要を記録したものを作成しなければならない。

### (公開状況の公表)

第 11 条 市長は、規則で定めるところにより、附属機関の会議及び懇談会等の公開状況について、公表しなければならない。

### (他の条例に特別の定めがある場合の取扱い)

第 12 条 附属機関の会議の公開等について、他の条例に特別の定めがあるときは、その定めるところによる。

### (委任)

第 13 条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

## 参考資料 2

### ○つくば市情報公開条例

平成 27 年 7 月 1 日

条例第 27 号

改正 平成 28 年 3 月 24 日条例第 26 号

平成 29 年 6 月 30 日条例第 22 号

令和 5 年 3 月 30 日条例第 5 号

令和 5 年 3 月 30 日条例第 6 号

#### 第 1 章 総則

##### (目的)

第 1 条 この条例は、民主主義の理念にのっとり、知る権利の保障としての行政文書の開示を請求する権利につき定めること等により、市の保有する情報の一層の公開を図り、もって市の行政活動を市民に説明する責務が全うされるようになるとともに、行政運営の透明性の向上及び公正で民主的な行政の推進に資することを目的とする。

(略)

以下の不開示情報が含まれる

##### (行政文書の開示義務)

会議の場合は非公開となる

第 5 条 実施機関は、開示請求があったときは、開示請求に係る行政文書に次の各号に掲げる情報（以下「不開示情報」という。）のいずれかが記録されている場合を除き、開示請求者に対し、当該行政文書を開示しなければならない。

(1) 個人に関する情報（事業を営む個人の当該事業に関する情報を除く。）であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等（文書、図画若しくは電磁的記録に記載され、若しくは記録され、又は音声、動作その他の方法を用いて表された一切の事項をいう。次条第 2 項において同じ。）により特定の個人を識別することができるもの（他の情報と照合することにより、特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）又は特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるもの。ただし、次に掲げる情報を除く。

ア 法令、条例若しくは規則の規定により又は慣行として公にされ、又は公にすることが予定されている情報

イ 人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報

ウ 当該個人が公務員等（国家公務員法（昭和 22 年法律第 120 号）第 2 条第 1 項に規定する国家公務員（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 4 項に規定する行政執行法人の役員及び職員を除く。）、独立行政法人等（独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号）第 2 条第 1 項に規定する独立行政法人等をいう。以下同じ。）の役員及び職員、地方公務員法（昭和 25 年法律第 261 号）第 2 条に規定する地方公務員並びに地方独立行政法人（地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 2 条第 1 項に規定する地方独立行政法人をいう。以下同じ。）の役員及び職員をいう。）である場合において、当該情報がその職務の遂行に係る情報であるときは、当該情報のうち、当該公務員等の職及び氏名並びに当該職務遂行の内容に係る部分。ただし、当該公務員等の氏名に係る部分を公にすることにより、当該個人の権利利益を害するおそれがある場合は、当該公務員等の氏名に係る部分を除く。

## 参考資料 2

(2) 個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）第 60 条第 3 項に規定する行政機関等匿名加工情報（同条第 4 項に規定する行政機関等匿名加工情報ファイルを構成するものに限る。以下この号において「行政機関等匿名加工情報」という。）又は行政機関等匿名加工情報の作成に用いた同条第 1 項に規定する保有個人情報から削除した同法第 2 条第 1 項第 1 号に規定する記述等若しくは同条第 2 項に規定する個人識別符号

(3) 法人その他の団体（国、独立行政法人等、地方公共団体及び地方独立行政法人を除く。以下この号において「法人等」という。）に関する情報又は事業を営む個人の当該事業に関する情報であって、次に掲げるもの。ただし、人の生命、健康、生活又は財産を保護するため、公にすることが必要であると認められる情報を除く。

ア 公にすることにより、当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの

イ 実施機関の要請を受けて、公にしないとの条件で任意に提供されたものであって、法人等又は個人における通例として公にしないこととされているものその他の当該条件を付することが当該情報の性質、当時の状況等に照らして合理的であると認められるもの

(4) 公にすることにより、公共の安全と秩序の維持に支障を及ぼすおそれがあると実施機関が認めることにつき相当の理由がある情報

(5) 市の機関、財産区、国、独立行政法人等、他の地方公共団体及び地方独立行政法人の内部又は相互間における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に市民の間に混乱を生じさせるおそれ又は特定の者に不当に利益を与え若しくは不利益を及ぼすおそれがあるもの

(6) 市の機関、財産区、国、独立行政法人等、他の地方公共団体又は地方独立行政法人が行う事務又は事業に関する情報であって、公にすることにより、次に掲げるおそれその他当該事務又は事業の性質上、当該事務又は事業の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあるもの

ア 監査、検査、取締り、試験又は租税の賦課若しくは徴収に係る事務に関し、正確な事実の把握を困難にするおそれ又は違法若しくは不当な行為を容易にし、若しくはその発見を困難にするおそれ

イ 契約、交渉又は争訟に係る事務に関し、国、独立行政法人等、地方公共団体又は地方独立行政法人の財産上の利益又は当事者としての地位を不当に害するおそれ

ウ 調査研究に係る事務に関し、その公正かつ能率的な遂行を不当に阻害するおそれ

エ 人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれ

オ 独立行政法人等、地方公共団体が経営する企業又は地方独立行政法人に係る事業に関し、その企業経営上の正当な利益を害するおそれ

(7) 法令又は他の条例の規定により公にすることができないと認められる情報

（以下、略）

## 第2期つくば市戦略プランの進行管理について

### 1 第2期つくば市戦略プランとは

本市は、市の地域特性、市民ニーズ、人口・財政の現状等を考慮し、時代の流れや変化を的確に捉え、中長期的視点を持って取り組み、諸課題を克服しながら次の世代に継承・発展させていく「持続可能都市」を目指すなかで、令和2年（2020年）3月に「つくば市未来構想」を改定するとともに、未来構想に基づく5年間の取組を定める「第2期つくば市戦略プラン」を策定・公表しました。

現在の「つくば市未来構想」は、まち・ひと・しごと創生法に基づき、本市における人口の現状と人口の将来展望を提示する「人口ビジョン」を統合し、「第2期つくば市戦略プラン」は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一体的に策定した計画です。

なお、「第2期つくば市戦略プラン」の計画期間が令和6年度（2024年度）までであることから、その後継として、令和7年（2025年）3月には「第3期つくば市戦略プラン」を策定しています。

### 2 進行管理の方法

「第2期つくば市戦略プラン」では、取組状況を計画期間（2020年～2024年）の各年度単位で、戦略プランに記載された17の基本施策とデジタル田園都市国家構想交付金のKPI等を元にした評価・検証を実施してきました。今回は、「第2期つくば市戦略プラン」の成果や課題を踏まえた「第3期つくば市戦略プラン」が策定済みであることを踏まえ、以下のとおり実施します。

#### （1）基本施策及び個別施策における指標の実績

「第2期つくば市戦略プラン」において、17の基本施策単位で設定されている指標の実績値及び基本施策に紐づく49の個別施策に付随する指標の実績値から進捗状況を計数的に確認します。

#### （2）デジタル田園都市国家構想交付金事業に係る効果検証

地方の社会課題解決・魅力向上の取組を支援するために国から交付される「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用し、「第2期つくば市戦略プラン」を推進してきた事業について、取組状況やKPIの達成状況等から事業の効果を検証し、事業計画の改善に向けた検討を行います。

## 第2期つくば市戦略プラン 令和6年度（2024年度）実績総括

「第2期つくば市戦略プラン（2020年度～2024年度）」は、2030年の未来像の実現に向けて、5年間で取組むべき基本施策や個別施策、主要プロジェクトをまとめ、その進捗状況を適切に把握できる効果的な指標（KPI）を備えた計画を目指して策定し、施策の推進に努めてきました。

### 1 評価方法

令和6年度（2024年度）は「第2期つくば市戦略プラン」の計画最終年度であり、「第2期つくば市戦略プラン」の成果や課題を踏まえた「第3期つくば市戦略プラン」が策定済みであることから、今回は各施策の進捗状況等を計数的に把握することを目的とし、各指標の実績値を確認します。

### 2 評価結果

#### （1）基本施策における指標達成状況について（詳細は資料2-2を参照）

- ・令和6年度（2024年度）の指標の達成状況は、「順調」が5/18（27.8%）、「概ね順調」が5/18（27.8%）、「やや遅れ」が2/18（11.1%）、「遅れ」が6/18（33.3%）となりました。

表1 基本施策の進捗状況

進捗状況	施策数
順調：2024年度の最終目標を達成している	5
概ね順調：2024年度の最終目標の達成率が80%以上、100%未満である	5
やや遅れ：2024年度の最終目標の達成率が80%未満である	2
遅れ：2024年度の最終目標を達成しておらず、かつ、基準年度より悪化	6

※ 基本施策II-1のみ2つの指標が設けられているため、基本施策の数（17）と表の合計数は異なる。

#### （2）個別施策における指標達成状況について（詳細は資料2-2を参照）

- ・令和6年度（2024年度）の指標の達成状況は、「順調」が40/74（54.1%）、「概ね順調」が11/74（14.9%）、「やや遅れ」が8/74（10.8%）、「遅れ」が15/74（20.3%）となりました。

表2 個別施策の進捗状況

進捗状況	施策数
順調：2024年度の最終目標を達成している	40
概ね順調：2024年度の最終目標の達成率が80%以上、100%未満である	11
やや遅れ：2024年度の最終目標の達成率が80%未満である	8
遅れ：2024年度の最終目標を達成しておらず、かつ、基準年度より悪化	15

### 3 今後の進め方

「第2期つくば市戦略プラン」については今回が最終評価となることから、今後は「第3期つくば市戦略プラン」のもと各種施策を推進し、進行管理に取り組みます。

## 第2期つくば市戦略プラン 基本施策及び個別施策 指標一覧

	基本施策	基本施策	順調	5	概ね順調	5	やや遅れ	2	遅れ	6	計	18	
		個別施策	順調	40	概ね順調	11	やや遅れ	8	遅れ	15	計	74	
基本施策	個別施策	施策の指標	目標の方向性	従前値	単位	基準年度	実績値					最終目標値	達成状況
							2020	2021	2022	2023	2024		
I-1 市民と共に創るまちづくりを推進する		市政に市民が参加できる環境が整っていると思う市民の割合	増加	29.4	%	2019	-	30.7	30.6	29.2	31.4	40.0	やや遅れ
I-1-① 地域活動と市民チャレンジへの支援		市民活動センターにおける相談件数	増加	235	件	2018	175	135	180	132	69	300	遅れ
I-1-② 区会加入及び新規区会設立促進と活動支援		区会加入戸数	増加	47,715	戸	2018	45,721	46,084	46,194	46,238	46,409	53,000	遅れ
I-1-③ 市政への市民参加の推進		市民が参加可能な附属機関及び懇談会等における市民委員の参加割合	維持	100.0	%	2018	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	順調
		市民参加型事業への参加者のうち、初参加者が占める割合	増加	-	%	-	77.8	80.0	51.3	43.7	47.8	50.0	概ね順調
I-1-④ SDGs普及による市民活動の促進		つくばSDGsパートナーズ会員が、SDGsに関する社会課題の取組に参加している割合	増加	38.1	%	2019	35.9	58.6	70.1	60.9	67.6	43.9	順調
I-2 資源をみがき、魅力あふれるまちをつくる		つくば市の魅力を市外の友人に紹介したい（自慢したい）と思う人の割合	増加	57.0	%	2019	-	58.3	59.9	57.8	59.8	60.0	概ね順調
I-2-① 豊かな農資源を輝かせることによる魅力の創出		地元食材等を取り扱っているレストラン・販売店数	増加	-	店舗	2019	126	153	157	160	167	150	順調
		つくばコレクション認証制度でのつくば市産の農産品を原料に使った認証品数	増加	15	商品	2018	25	27	27	26	28	25	順調
I-2-② 豊かな資源をいかした観光の振興		観光客入込数	増加	4,200,000	人	2018	2,344,400	2,383,500	3,136,000	4,062,000	3,694,800	4,720,000	遅れ
I-2-③ 文化芸術の推進及び文化財の保存と活用		市民文化祭の参加団体数	増加	349	団体	2019	-	-	296	331	365	360	順調
		文化財展示施設（5施設）の利用者数	増加	76,130	人	-	52,827	46,791	60,945	57,265	59,429	84,000	遅れ
I-2-④ スポーツでつながるまちの推進		成人（18歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率	増加	55.1	%	2018	-	-	55.1	-	-	65.0	-
I-2-⑤ 空き家・空き店舗等の有効活用の推進		「つくば市空家バンク制度」による空き家の売買又は賃貸借の成約件数	増加	5	件	2019	6	9	9	12	18	30	やや遅れ
I-3 つくばならではの街並みや体験を創出する		これからもつくば市に住み続けたいと思う人の割合	増加	53.5	%	2019	-	52.2	51.2	51.8	52.9	56.2	遅れ
I-3-① 魅力ある研究学園都市地域の推進		研究学園都市の街並み景観を「優れている」「どちらかと言えば優れている」思っている人の割合	増加	71.1	%	2019	-	74.5	73.8	74.3	72.0	76.1	概ね順調
I-3-② 地域資源をいかした持続的な周辺市街地の振興		周辺市街地における新たな地域づくりのアイデア提案件数	増加	16	件	2018	27	20	26	28	29	32	概ね順調
		周辺市街地における地域・民間企業・NPO等の新たな協働件数	増加	2	件	2018	5	6	24	26	13	16	概ね順調

資料2-2

基本施策	施策の指標	目標の方向性	従前値	単位	基準年度	実績値					最終目標値	達成状況
						2020	2021	2022	2023	2024		
I-4 シティプロモーションを推進する	つくば市に「愛着がある」と回答する人の割合	増加	35.4	%	2019	-	34.6	36.4	36.6	36.9	38.9	概ね順調
I-4-① 市民目線の効果的な広報の推進	広報紙の満足度	増加	58.9	%	2019	-	59.0	58.7	58.8	61.1	64.9	概ね順調
	ホームページ・SNS等による情報発信の満足度	増加	39.4	%	2019	-	44.4	43.7	41.6	45.2	43.3	順調
	職員向け広報力向上セミナーの受講者数（延べ人数）	増加	133	人	-	118	284	543	704	863	750	順調
I-4-② 市内外へ向けたPRの推進	つくば市公式Facebookつくばファンクラブの「いいね」数	増加	8,796	いいね	2018	10,095	11,218	11,296	11,352	11,706	9,700	順調
	ふるさと納税の年間寄附人数	増加	1,675	人	2018	9,518	7,919	7,444	9,171	11,913	5,040	順調
II-1 地域が支え合い、医療、介護、福祉が充実したまちをつくる	高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思う人の割合	増加	31.4	%	2019	-	35.1	34.6	29.5	32.1	34.4	概ね順調
	住みやすい理由として充実した医療機関・福祉サービスを挙げる人の割合	増加	32.1	%	2019	-	26.5	28.5	28.9	29.9	35.1	遅れ
II-1-① 世代や分野を超えた地域の居場所づくりの拡充	集いの場の延利用率数	増加	3,000	人	2018	15,513	25,890	41,861	45,520	48,074	8,000	順調
	高齢者のサロン・認知症カフェ数	増加	9	か所	2019	15	16	20	22	25	21	順調
II-1-② 民生委員等のサポート強化と次世代の育成	民生委員と会話する機会がない人の割合	減少	73.6	%	2016	75.5	75.5	77.9	77.9	77.9	40.0	遅れ
	地域活動が活発だと思う人（高齢者）の割合	増加	32.5	%	2016	31.6	31.6	27.4	27.4	27.4	40.0	遅れ
	学校での地域での支えあいの講座数	増加	0	回	2019	5	18	31	16	19	33	やや遅れ
II-1-③ 認知機能低下等の支援策情報発信と相談体制の充実	高齢者福祉サービスに関する情報を地域包括支援センターで入手している人の数	増加	1.1	%	2016	3.2	3.2	3.2	3.5	3.5	10.0	やや遅れ
	相談窓口（地域包括支援センター）の数	増加	5	か所	2019	6	6	6	6	7	概ね順調	
II-1-④ 地域で安心して暮らし続けるための福祉サービスの充実	医療の事業者数・介護事業者数	増加	49	か所	2019	57	63	62	75	77	55	順調
	多職種の連携	増加	38	回	2019	37	50	49	82	106	50	順調
II-1-⑤ 障害者の自立に向けた就労等の支援	障害者雇用率	増加	2.25	%	2018	2.20	2.20	2.50	2.69	2.70	2.40	順調
	障害者優先調達法に基づいた物品及び役務の調達額	増加	6,593,138	円	2018	5,969,734	6,533,831	5,481,917	5,924,120	7,965,305	10,000,000	やや遅れ

資料2-2

基本施策 個別施策	施策の指標	目標の 方向性	従前値	単位	基準 年度	実績値					最終 目標値	達成 状況
						2020	2021	2022	2023	2024		
II-2 人生100年時代に生涯いきいきと暮らせるまちをつくる	健康寿命	延伸	80.9	歳	2018	82.0	82.4	82.3	82.1	81.9	81.4	順調
II-2-① 一人ひとりのこころと体の健康づくりの支援	国民健康保険被保険者の特定健康診査受診率	増加	37.2	%	2018	22.4	31.9	33.3	34.8	35.9	60.0	遅れ
	特定保健指導（積極的支援、動機づけ支援）終了者の割合	増加	28.9	%	2018	14.2	20.4	31.2	35.2	34.3	60.0	やや遅れ
II-2-② 誰もがつながり役割を持てる社会参加の環境整備	出前講座の参加者	増加	4,440	人	2018	562	941	1,578	4,503	6,691	5,500	順調
	ボランティア登録数	増加	6,637	人	2019	5,588	5,163	4,872	5,850	5,914	8,000	遅れ
II-3 地域や市民一人ひとりの防災・防犯への備えを後押しする	地域の住民が協力して行う防犯活動へ参加している人の割合	増加	15.8	%	2019	-	13.1	14.1	12.1	13.4	17.4	遅れ
II-3-① 市の備蓄の推進や公共施設の機能維持	災害時に必要な量の食料品数	維持	218,022	食	2019	220,089	223,423	223,695	223,743	222,384	現状維持	順調
	災害時に必要な量の飲料水数	維持	88,000	本	2019	88,000	90,360	91,128	87,648	101,808	現状維持	順調
	公共施設の非常用電源（ポータブル発電機を含む）数	増加	5	件	2019	83	83	87	90	94	全公共施設	順調
	災害対応用水源施設数	増加	13	施設	2019	13	13	16	16	18	17	順調
II-3-② 自宅の安全・備蓄対策や地域での支えあいの推進	防止措置を実践している人の割合	増加	37.7	%	2019	-	40.0	39.1	36.5	36.3	42.7	遅れ
	防災用品や食料・水の備蓄を実践している人の割合	増加	60.6	%	2017	-	67.7	67.8	68.5	69.7	65.6	順調
	地区防災計画の策定地域数	増加	10	地区	-	10	10	12	13	15	概ね順調	
II-3-③ 防犯意識を高め、安全・安心を実感できる生活環境づくり	防犯ボランティア団体の登録数	増加	115	団体	2018	118	115	115	111	106	120	遅れ
II-4 公共施設やインフラのマネジメントを推進する	公共施設・インフラについての「個別施設計画（長寿命化計画）」の策定期数	増加	5	計画	2018	9	11	14	15	18	10	順調
II-4-① 公共施設・インフラの効果的な維持管理の推進	自主点検実施により判明した予防保全が必要な不具合箇所に対する修繕未実施期間	短縮	22	年間	2019	6	5	2	7	2	5年以内	順調
II-4-② 保有資産の有効活用の推進	用途を廃止した未利用施設の保有量	削減	19	か所	2018	13	10	7	8	7	0	やや遅れ
	各施設の平均稼働率	増加	37.0	%	2017	34.3	38.5	59.2	66.1	64.1	40.7	順調
II-4-③ 保有資産の適正化	集約化・複合化の指針作成	作成	なし	-	2018	なし	なし	なし	なし	あり	遅れ	
II-4-④ 公共施設やインフラ管理への先端技術等の導入	公共施設・インフラの維持管理に新技術等を導入している所管課数	増加	-	%	2019	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	遅れ

## 資料 2 - 2

基本施策	施策の指標	目標の方向性	従前値	単位	基準年度	実績値					最終目標値	達成状況
						2020	2021	2022	2023	2024		
II-5 多様な移動手段があるまちをつくる	日常利用する交通手段が自家用車である人の割合	減少	85.8	%	2019	-	89.1	88.4	89.0	89.1	83.5	遅れ
II-5-① まちづくりを支える公共交通ネットワークの構築	つくバス改編後のつくバス利用者数	増加	1,052,988	人	2018	646,036	738,118	981,786	1,132,827	1,125,821	1,053,000	順調
II-5-② 自動車から自転車への転換の推進	自転車利用率	増加	19.9	%	2016	-	24.0	26.2	25.4	24.4	25.0	概ね順調
II-6 身近な自然を守り、楽しみ、持続させる	住みやすいと感じる主な理由に「豊かな自然」を挙げる人の割合	増加	59.3	%	2019	-	57.5	57.1	53.1	54.1	60.0	遅れ
II-6-① 身近な自然を楽しむ環境づくり	「市外の友人に紹介したい（自慢したい）と思う魅力」として「自然（筑波山、牛久沼など）」と答える人の割合	増加	81.4	%	2019	-	81.5	82.2	78.3	81.0	84.0	遅れ
	筑波山地域ジオパーク認定ジオガイドの活動実績（ガイド実施延べ人数）	維持	85	人	2018	30	43	40	100	237	85	順調
II-6-② 自発的な保全活動の推進	環境を守る活動に参加している人の割合	増加	35.8	%	2019	33.8	-	44.9	42.9	-	50.0	-
III-1 こどもも親も楽しく育つ環境をつくる	つくば市には安心してこどもを生み育てられる環境が整っていると感じる人の割合	増加	59.1	%	2019	-	64.3	61.0	59.8	59.2	70.0	概ね順調
III-1-① こどもを安心して生み育てられる環境整備	子育てに不安を感じたときに対処できる親の割合	増加	80.1	%	2018	81.9	77.7	82.1	80.4	82.2	90.0	概ね順調
	市外出産をした理由が「市内で予約が取れなかった」方の割合	減少	6.6	%	2018	10.2	8.7	8.3	5.4	2.7	5.0	順調
III-1-② ニーズに対応した子育て環境の整備	待機児童の割合	減少	1.9	%	2019	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	順調
III-1-③ こどもも親も楽しめる遊べる場の整備	一人当たりの都市公園面積	増加	9.18	m <sup>2</sup> /人	-	9.10	9.00	8.80	8.90	8.63	10.0	遅れ
III-2 個性を伸ばし未来を切り拓く力をはぐくむ	将来の夢や目標を持つ児童・生徒の割合を増加させる。	増加	77.5	%	2018	73.9	74.5	73.9	73.7	76.2	80.0	遅れ
III-2-① 個性を伸ばし未来を切り拓く力を育む学校教育の創出	「自分には、よいところがあると思いますか」に「はい」と回答する児童・生徒の割合	増加	76.9	%	2018	74.8	75.5	79.4	80.3	83.1	80.0	順調
	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に「はい」と回答する児童・生徒の割合	増加	50.5	%	2018	47.7	50.7	48.6	72.0	79.5	53.5	順調
III-2-② 魅力ある放課後の創出	公設の放課後児童クラブ数	増加	48	クラブ	2018	65	70	80	79	87	84	順調
	児童クラブの待機児童数	解消	84	人	2018	45	23	51	97	0	0	順調
	放課後子供教室のイベント実施回数	増加	217	回	2018	359	326	491	557	585	668	概ね順調
III-2-③ 就学前におけるこどもの学びの充実	こどもの非認知能力を向上させるための研修を受けた保育士の数	増加	0	人	2019	23	69	199	467	739	350	順調
III-3 多様性をいかした誰もが活躍できる社会をつくる	「自分らしく自分のやりたいことができる社会である」と思う人の割合	増加	55.7	%	2019	-	55.3	57.4	56.6	58.8	64.1	概ね順調
III-3-① 多様性をいかした社会の推進	男女共同参画会議の参加者数	増加	224	人	2018	-	171	105	117	155	336	遅れ
	在留外国人の居住満足度	増加	-	%	2019	-	94.1	-	-	93.0	-	-

資料 2-2

基本施策	施策の指標	目標の方向性	従前値	単位	基準年度	実績値					最終目標値	達成状況
						2020	2021	2022	2023	2024		
IV-1 知識集約によってイノベーションを創出する	技術系の新規創業数	増加	40	件	2018	10	19	29	43	59	50	順調
IV-1-① 新たな共創の仕組みづくり	2020年度～2024年度の未来共創プロジェクトの相談件数	増加	-	件	2019	8	18	34	36	39	50	やや遅れ
IV-1-② 社会実装の推進によるイノベーション創出	Society 5.0社会実装トライアル支援の件数	増加	5	件	2018	5	11	16	21	25	25	順調
IV-2 地元で頑張る組織や人が成長し続けるまちをつくる	新規創業に伴う新規就職者数	増加	-	人	-	124	211	331	451	573	390	順調
IV-2-① 地域産業人材の確保・定着の推進	就活イベントでの求職者と企業のマッチング件数（企業ブースにおける参加求職者の面談件数）	増加	174	件	2018	709	609	1,498	1,811	1,962	945	順調
IV-2-② 地元企業等の新たなチャレンジの支援	新規の創業件数	増加	74	件/年	-	124	87	120	120	122	79	順調
IV-3 市民のために新たな技術や価値を導入し、進化するまちをつくる	先端的な製品・サービスが暮らしの中にいかされていると思う人の割合	増加	11.8	%	2019	-	14.4	19.4	17.6	17.6	50.0	やや遅れ
IV-3-① 人とテクノロジーが共生するスマートシティの推進	スマートシティの推進に係るプロジェクトの利用者満足度	増加	-	%	-	-	-	-	-	70.8	47.2	順調
IV-3-② データで市民を豊かにするまちの推進	利用しやすいオープンデータの公開件数	増加	33	件	2019	145	160	161	191	208	150	順調
	庁内のデータ利活用研修受講者数	増加	168	人	2018	357	493	618	731	883	750	順調
IV-3-③ 書かない・待たない・行かないデジタル窓口の推進	マイナンバーカードの交付率	増加	15.8	%	2018	33.0	48.0	69.5	79.8	89.3	92.2	概ね順調
IV-4 地球に優しくごみのない低炭素で循環型のまちをつくる	一人一日当たりの生活系ごみの排出量	削減	695	g/人・日	2018	678.5	658.0	634.2	613.8	604.8	668.0	順調
IV-4-① 食品ロス削減に向けた意識啓発	つくば市内において「いばらき食べきり協力店」などの食べ残しを減らす取組を実施している飲食店数	増加	9	店舗	2019	18	44	45	42	41	110	やや遅れ
IV-4-② 再資源化、再利用化の推進	廃棄物のリサイクル率	向上	20.0	%	2018	21.7	23.0	26.9	26.6	26.5	23.4	順調
IV-4-③ 環境美化活動の推進	市民の自主的なボランティア参加人数	増加	9,443	人	2018	4,455	9,848	12,860	13,321	14,553	11,000	順調
IV-4-④ 低炭素化の推進	低炭素住宅認定戸数	増加	67	戸	2019	150	261	372	465	568	342	順調

デジタル田園都市国家構想交付金事業(地方創生推進タイプ・地方創生拠点整備タイプ・デジタル実装タイプ)に付随する  
重要業績評価指標(KPI)の評価シート

**デジタル田園都市国家構想交付金  
(地方創生推進タイプ・地方創生拠点整備タイプ・デジタル実装タイプ)  
【重要業績評価指標(KPI)】の評価詳細**

デジタル田園都市国家構想交付金実績評価シート【重要業績評価指標(KPI)】の記入内容は以下のとおりです。

		記入内容
事業名	事業名を記入	
交付金タイプ名	交付金のタイプ名を記入	
連携自治体名	広域連携事業の場合は連携自治体名を記入	
事業の概要・目的	事業の概要・目的を記入	
交付金を充当する事業経費(実績額)	交付金を充当する事業経費を記入	
R6年度実績額(円)	令和6年度事業が終了し、確定した事業費の実績額を記入	
R6年度国費充当額(円)	令和6年度事業へ最終的に充当した国費(本交付金)の金額を記入	
事業始期	交付金が充当される事業計画期間の開始時期を記入	
事業終期	交付金が充当される事業計画期間の終了時期を記入	
担当部課等	事業を所管する部課等を記入	
KPI	事業ごとに設定したKPI(重要業績評価指標)を記入(複数ある場合はすべて)	
設定根拠	KPIの設定根拠(費用対効果を計測するのに適している理由等)を記入	
従前値	KPIについて、事業開始前の数値を記入	
単位	KPIの単位を記入	
基準年度	KPI設定の基準年度を記入(原則、事業開始年度の前年度)	
R3		
R4	該当する各年度の目標値を記入 【地方創生推進タイプ・地方創生拠点整備タイプ】	
R5	対前年度比の増加分である点に注意	
R6	【デジタル実装タイプ】	
R7	累計値である点に注意	
R8		
合計(目標値)	目標値の合計を記入	
目標年度	KPI達成の最終目標年度を記入	
R3	該当する各年度の実績値を記入 ※未確定の場合は、時点がわかるように暫定版を記入	
R4	※原則、小数点第2位を四捨五入し記入	
R5	目標値を小数点第2位まで設定している場合は、小数点第3位を四捨五入し記入 【地方創生推進タイプ・地方創生拠点整備タイプ】	
R6	対前年度比の増加分である点に注意	
R7	【デジタル実装タイプ】	
R8	累計値である点に注意	
合計	実績値の合計を記入 ※小数点第2位を四捨五入し記入	
目標値の達成率	当該年度の目標値に対する実績値の達成率を記入	
KPI進捗評価	以下の基準を参考に、各事業のKPI達成状況に応じて評点を算出し、各KPIの評点平均を基に評価を決定 ※当該年度の目標値を設定していないKPIについては「未評価」とする。  ○目標値に対する達成度合いに応じた評点(小数点第2位を四捨五入) 目標値を達成 … 10点 目標値の70%以上 … 5点 目標値の50%以上 … 3点 目標値の50%未満 … 0点 ○各KPIの評点平均(小数点第2位を四捨五入)に基づく評価 A … 10点 B … 7点以上10点未満 C … 5点以上7点未満 D … 3点以上5点未満 E … 3点未満	

R6年度実施内容 (特記事項)	令和6年度の具体的な実施内容を記入し、その内、特記事項等があれば、併せて記入。 ○特記事項 ・KPIをはじめ事業実施に大きく影響を及ぼした要因・背景等 ・KPIの実績値では確認できない、事業の取組や進捗等のうち特に総合評価に反映すべき成果等 ※総合評価にプラスの影響を与える内容、マイナスの影響を与える内容、影響を与えない内容を複数記載可能																																					
特記事項評価	R6年度実施内容(特記事項)の内容を総合評価へどのように反映させるか、担当部課等で判断し、以下の3項目から選択 ・ア：特記事項の記載を考慮し、総合評価を1段階引き上げ ・イ：特記事項の記載を考慮し、総合評価は据え置く ・ウ：特記事項の記載を考慮し、総合評価を1段階引き下げ ※特記事項に複数の内容が記載されている場合、総合的に考慮し判断する																																					
総合評価	「KPIの進捗評価」を基に、「特記事項」の内容を加味して、事業の総合評価を決定(以下の表を参照) <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="6">評価</th> </tr> <tr> <th>S</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>E</th> <th>F</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">特 評 記 事 項 評 価</th> <th>ア</th> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> <tr> <th>イ</th> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> <td></td> </tr> <tr> <th>ウ</th> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> <td>F</td> <td></td> </tr> </table>			評価						S	A	B	C	D	E	F	特 評 記 事 項 評 価	ア	S	A	B	C	D	E	イ	A	B	C	D	E		ウ	B	C	D	E	F	
				評価																																		
		S	A	B	C	D	E	F																														
特 評 記 事 項 評 価	ア	S	A	B	C	D	E																															
	イ	A	B	C	D	E																																
	ウ	B	C	D	E	F																																
課題	事業について、現時点での課題等を具体的に記入																																					
今後の取組(改善目標)	課題を踏まえ、令和7年度以降の取組について記入 ※交付金事業としての事業期間が終了する場合も、今後の事業の展開等について記入																																					

交付金事業に付随する重要業績評価指標(KPI)の評価総括表【デジタル田園都市国家構想交付金】

事業名	交付金 タイプ	連携自治体	シート No.	R6年度 実績額(円)	R6年度 国費充当額(円)	担当部課等	KPI	単位	従前値	基準年度	目標値		達成度	達成度 評点	評点 平均	KPI 進捗評価	特記事項評価	総合評価				
											R6	R6										
持続可能な地域づくりに向けた地域資源マネタイズプロジェクト	地方創生推進タイプ	つくば市単独	①	18,441,380円	9,220,690円	都市計画部 周辺市街地振興課	ネットワーク組織に関連した新規の事業収入	千円	0	令和2年度	6,000	6,170	102.8%	10	10.0	A	イ:据置き	A				
							チャレンジショップ入居者及び対象エリアでの開業件数	件	0	令和2年度	2	8	400.0%	10								
							専門家による自走化の支援件数	件	0	令和2年度	2	2	100.0%	10								
							コンテストの開催等を通じた地域づくりへの新たな人材の参画者数	人	0	令和2年度	10	55	550.0%	10								
市民中心のSociety5.0社会推進事業	地方創生推進タイプ	つくば市単独	②	4,646,000円	2,323,000円	政策イノベーション部 科学技術戦略課	地域課題解決型未来技術実証実験の支援により社会実装(実用化)に至った件数	件	0	令和2年度	2	3	150.0%	10	7.5	B	イ:据置き	B				
							新規創業数	件	33	令和2年度	18	16	88.9%	5								
移動の自由と安心安全で自立した生活を支えるSociety 5.0推進事業	地方創生推進タイプ	つくば市単独	③	72,851,432円	36,425,716円	政策イノベーション部 科学技術戦略課	移動スーパーーか所あたりの月ごと平均利用者数	人/月	26.2	令和3年度	1	0.7	70.0%	5	7.0	B	イ:据置き	B				
							(仮称)つくば市ポータルアプリのインストール数(つくば市の人口に対する割合)	人(%)	0	令和3年度	5,000	6,631	132.6%	10								
											2	2.7										
							スマートフォン教室へスマホアドバイザーとして大学生が派遣された人数	人	17	令和3年度	16	11	68.8%	3								
							分身ロボットを活用した障害者雇用の実施者数	者	0	令和3年度	1	2	200.0%	10								

交付金事業に付随する重要業績評価指標(KPI)の評価総括表【デジタル田園都市国家構想交付金】

事業名	交付金 タイプ	連携自治体	シート No.	R6年度 実績額(円)	R6年度 国費充当額(円)	担当部課等	KPI	単位	従前値	基準年度	目標値	実績値	達成度	達成度 評点	評点 平均	KPI 進捗評価	特記事項評価	総合評価
											R6	R6						
「科学技術のまち、つくば」の情報発信力強化及び探求・STEAMの学び推進プロジェクト	地方創生推進タイプ	つくば市単独	④	10,201,392円	5,100,696円	政策イノベーション部 科学技術戦略課	問題や課題を自分の力で解決しようとする児童・生徒の割合	%	43.1	令和4年度	0.65	10.38	1596.9%	10	8.3	B	イ:据置き	B
							科学技術関連イベント情報ホームページの平均月間閲覧数	回	6,000	令和4年度	150	4,070	2713.3%	10				
							STEAM教育授業の受講人数	人	330	令和4年度	670	580	86.6%	5				
旧筑波東中学校への自転車拠点及びジオパーク中核拠点整備	地方創生拠点整備タイプ	つくば市単独	⑤	0円	0円	経済部 ジオパーク室 都市計画部 サイクリングコミュニティ推進室	(仮称)自転車拠点・筑波山地域ジオパーク中核拠点施設利用者数	人	0	令和3年度	4,750	8,235	173.4%	10	6.7	C	イ:据置き	C
							筑波山地域ジオパーク中核拠点施設における認定ジオガイドの活動実績(ガイド実施延べ人)	人	0	令和3年度	68	137	201.5%	10				
							BMXレーシングコース利用料収入	円	0	令和3年度	3,300,000	1,140,000	34.5%	0				
(仮称)つくば市ポータルアプリ整備事業	デジタル実装タイプ	つくば市単独	⑥	0円	0円	政策イノベーション部 科学技術戦略課	(仮称)つくば市ポータルアプリの延べダウンロード数(つくば市の人口に対する割合)	人(%)	0	令和3年度	40,000	25,234	63.1%	3	2.0	E	イ:据置き	E
							アンケートシステムにより収集した意見を政策に反映させた件数	件/年	0	令和3年度	5	1	20.0%	0				
							(仮称)つくば市ポータルアプリの利用者満足度	%	0	令和3年度	80	71	88.8%	5				
							市民レポートの件数	件/年	0	令和3年度	800	305	38.1%	0				

交付金事業に付随する重要業績評価指標(KPI)の評価総括表【デジタル田園都市国家構想交付金】

事業名	交付金 タイプ	連携自治体	シート No.	R6年度 実績額(円)	R6年度 国費充当額(円)	担当部課等	KPI	単位	従前値	基準年度	目標値	実績値	達成度	達成度 評点	評点 平均	KPI 進捗評価	特記事項評価	総合評価
											R6	R6						
つくば市ポータルアプリ整備・改修事業	デジタル実装タイプ	つくば市単独	⑦	0円	0円	政策イノベーション部 科学技術戦略課	つくば市ポータルアプリの延べダウンロード数	人	0	令和4年度	41,100	25,234	61.4%	3	2.0	E	イ:据置き	E
							市民レポートの件数	件/年	0	令和4年度	820	305	37.2%	0				
							つくば市ポータルアプリの利用者満足度	ポイント	0	令和4年度	82	71	86.6%	5				
							ユーザーの意見を次年度事業計画に反映させた件数	件/年	0	令和4年度	6	1	16.7%	0				
AIオンデマンド送迎配車サービス導入による地域公共交通の高度化	デジタル実装タイプ	つくば市単独	⑧	0円	0円	政策イノベーション部 科学技術戦略課	AIオンデマンド送迎配車サービスの利用者数	人	0	令和4年度	250	0	0.0%	0	0.0	E	イ:据置き	E
							AIオンデマンド送迎配車サービスの利用者満足度	%	0	令和4年度	89	0	0.0%	0				
インターネット投票システム構築事業	デジタル実装タイプ	つくば市単独	⑨	0円	0円	政策イノベーション部 科学技術戦略課	つくば市ポータルアプリの延べダウンロード数	人	0	令和4年度	40,000	25,234	63.1%	3	3.0	D	イ:据置き	D
							模擬投票の投票率	%	0	令和4年度	20	11	55.0%	3				
議場オンライン議会対応のためのディスプレイ設置事業	デジタル実装タイプ	つくば市単独	⑩	10,648,000円	5,324,000円	議会局 議会総務課	質問資料表示議員数	人	0	令和5年度	8	28	350.0%	10	10.0	A	イ:据置き	A
							本会議年間傍聴者数	人	0	令和5年度	200	301	150.5%	10				
							傍聴者アンケート(ディスプレイ満足度)	%	0	令和5年度	50	70	140.0%	10				
							市政に市民の声が生かされていると思うと回答する市民の割合	%	0	令和5年度	28	69	246.4%	10				

交付金事業に付随する重要業績評価指標(KPI)の評価総括表【デジタル田園都市国家構想交付金】

事業名	交付金 タイプ	連携自治体	シート No.	R6年度 実績額(円)	R6年度 国費充当額(円)	担当部課等	KPI	単位	従前値	基準年度	目標値		実績値 R6	達成度 R6	達成度 評点	評点 平均	KPI 進捗評価	特記事項評価	総合評価							
											R6	R6														
地域連携で移動の足を確保するためのモビリティサービス基盤の構築	デジタル実装タイプ	つくば市、牛久市、下妻市、土浦市、茨城県	⑪	78,177,127円	56,632,845円	都市計画部 総合交通政策課	利用者数	人	0	令和5年度	600	53	8.8%	0	6.4	C	イ:据置き	C								
							リピート率 (初回利用のお客様が翌月も複数回当該サービスを利用継続する割合)	%	0	令和5年度	30	37	123.3%	10												
							満足度	%	0	令和5年度	85	66	77.6%	5												
							継続利用意向	%	0	令和5年度	60	94	156.7%	10												
							登録ドライバー数	人	0	令和5年度	80	88	110.0%	10												
							配車時間	分(以内)	0	令和5年度	20	1.4	1395.3%	10												
							行政区域を超えた運送件数	件	0	令和5年度	100	33	33.0%	0												
							公共交通の利用者数の増加率 (公共交通利用の場合) ※令和7年度から	%	「未評価」																	
							住民の外出回数 (外出頻度が増加したと答えた割合) ※令和7年度から	%	「未評価」																	

## 令和6年度に実施した交付金事業における実績評価シート(①)

事業名	持続可能な地域づくりに向けた地域資源マネタイズプロジェクト	交付金タイプ	地方創生推進タイプ							
		連携自治体	つくば市単独							
事業の概要・目的		1. チャレンジエリア形成:8つの周辺市街地から一部地域を選定の上、その中心部にチャレンジエリアを設定し、個性的な新規事業者の誘致、チャレンジショップ、空き地を活用したマーケット、キッチンカーなどの多様な出店形態を用意し、既存店舗との相乗効果や地域住民との接点を提供するなど、地域経済に参画しやすい環境を整備していく。 2. 稼げる地域づくりの加速化:地域活性化協議会やコンペ採択者の「稼ぐ力」への意識改革のために、資金調達のノウハウや事業計画策定のためのセミナー・勉強会の開催、個別具体的な相談に対応する伴走型支援を行っていく。また、活性化協議会設立までのプロセスをブラッシュアップし、周辺市街地近隣地域のコミュニティへの波及を図る。 3. 地域づくりへの多様な人材の参画:活性化協議会の持続化のためには、若年層等(学生、子育て世代や女性)といった多様な人材の参画が不可欠であり、それら次世代を担う人材が協議会活動に参加する契機となる「(仮称)地域人材発掘コンテスト」を開催し、受賞者と活性化協議会との継続的な関係性の構築を図る。								
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)チャレンジエリア形成事業【ソフト事業】 4,817,000円 (2)稼げる地域づくりの加速化事業 4,732,376円 (3)地域づくりへの多様な人材参画促進事業 6,706,000円 (4)チャレンジエリア形成事業【ハード事業】 2,186,004円									
R6年度実績額	18,441,380円	国費充当額(1/2)	9,220,690円							
事業始期	令和3年4月	事業終期	令和8年3月							
KPI	ネットワーク組織に関連した新規の事業収入									
設定根拠	ネットワーク組織を組成し、支援を行った結果として発生するものである。定量的・客観的に分析でき、意欲ある者に対しての目標値としても適している。また、費用対効果を確認する点においても、投資(費用)に対しての成果(事業収入)を明確にすることができます。									
指標①	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
	0 千円	令和2年度	1,000	4,000	6,000	6,000	6,000	23,000 千円	令和7年度	
	実績値		1,360	3,955	4,425	6,170	0	15,910 千円	評点	10
	目標値の達成率		136.0%	98.9%	73.8%	102.8%	0.0%	69.2%		

指標②	KPI	チャレンジショップ入居者及び対象エリアでの開業件数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課		
	設定根拠	本事業の根幹となるネットワーク組織では、チャレンジショップのソフト面での環境を整備するなど、意欲ある者の支援を行っていくため、実効的な支援を行えたかどうかの定量的な指標として適している。									
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 件	令和2年度	0	2	2	2	2	8 件	令和7年度	
	実績値			0	3	7	8	0	18 件	評点	
	目標値の達成率			0.0%	150.0%	350.0%	400.0%	0.0%	225.0%		
指標③	KPI	専門家による自走化の支援件数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課		
	設定根拠	ネットワーク組織による支援活動の効果を客観的に捉える指標として適している。									
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 件	令和2年度	4	2	2	2	2	12 件	令和7年度	
	実績値			3	2	3	2	0	10 件	評点	
	目標値の達成率			75.0%	100.0%	150.0%	100.0%	0.0%	83.3%		
指標④	KPI	コンテストの開催等を通じた地域づくりへの新たな人材の参画者数						指標担当部課等	都市計画部周辺市街地振興課		
	設定根拠	多様な人材の参画によって組織の新陳代謝を促し、持続可能な活動を行っていく体制を整えていく必要があり、組織が新しい活力を取り入れながら活動できているかという指標として適している。									
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 人	令和2年度	0	6	2	10	10	28 人	令和7年度	
	実績値			0	47	38	55	0	140 人	評点	
	目標値の達成率			0.0%	783.3%	1900.0%	550.0%	0.0%	500.0%		

評価の分析	評点の平均値	R6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	KPI進捗評価	<p>・「ネットワーク組織に関連した新規の事業収入」 各活性化協議会の自主事業による収入(イベントの出店料、フリーペーパーの広告収入等)や、チャレンジショップへの出店及び地域づくりを学びながら実践していくコミュニティである「R8(アールエイト)まちづくり学校」の参加者による事業収益等があった。協議会による自己資金の獲得額が増えたことや、チャレンジショップにおいて集客力のある出店者を確保できたことにより目標値を達成することができた。</p> <p>・「チャレンジショップ入居者及び対象エリアでの開業件数」 チャレンジショップ出店者を募集する際、より魅力的な出店者を獲得するため、出店のためのビジネスプランコンテストを開催し、ビジネスプランを練る段階から有識者である審査員のアドバイスが受けられたり、出店者として採択された場合は店舗運営にかかる経費への助成金を支給する等の新たな試みを行った。また、常時内覧を受け付けるほか、チラシやSNS等、様々な場所や方法により周知を図ることで、目標を超える8件の開業を達成した。</p> <p>・「専門家による自走化の支援件数」 各活性化協議会から参加者を募り、地域づくり活動の持続化についてオリエンテーション等の形式を交えて専門家からレクチャーを受け、互いに意見交換する機会を設けた。また、各協議会・有識者・地域外から地域づくり活動に参画する人材が集まり、地域づくりにおけるこれまでの経験や課題点について話し合う機会を設け、地域づくりに参画していく中で抱える課題解決を支援した。</p> <p>・「コンテストの開催等を通じた地域づくりへの新たな人材の参画者数」 継続的な地域づくりへの参画を促進するコミュニティ事業「R8まちづくり学校」において、参加者同士が実践したい地域づくりの内容ごとに「部活動」を立ち上げ、アイデアの実践に挑戦した。部活動だけでなく、地域づくりについて学ぶ「ゼミ」や周辺市街地を実際に訪問する「実習」のメニューを設け、目標を大幅に上回る参画者数となった。</p>		
	A			
課題		今後の取組(改善目標)		
地域活性化協議会において、構成員の高齢化が進み、若年層の取り込みが困難であることや、活動内容・人材の過減化に課題がある。どの地域でも持続的な活動が行えるように、地域の魅力の再確認や、新たに参画した人材や企業等とのマッチングを図っていく必要がある。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度に実施したチャレンジショップ出店のための「ビジネスプランコンテスト」の成果を踏まえ、より集客力のあるチャレンジショップ出店者の獲得や、店舗運営における伴走支援の質向上に取り組み、地域の賑わいを創出する。</li> <li>・各活性化協議会の希望に応じて企業等からの協賛やイベント時のサポート支援の獲得を図る等、持続可能な地域づくりに向けた活性化支援を行う。</li> <li>・「R8まちづくり学校」を活用し、地域づくりに関心のある多様な人材の定着とさらなる掘り起こしを行い、多様な人材と活性化協議会の連携も視野に入れながら、協議会の抱える固定・過減化等の課題にも対処する。</li> </ul>		

## 令和6年度に実施した交付金事業における実績評価シート(②)

事業名	市民中心のSociety5.0社会推進事業	交付金タイプ		地方創生推進タイプ								
		連携自治体	つくば市単独									
事業の概要・目的	<p>市民中心のSociety5.0社会に向け、科学分野のヒト(研究者)・コト(研究成果)・モノ(研究機関)の集積と、スタートアップが活発であるという本市の強みをいかし、あらゆる未来技術の社会実装を目指す。これを通じて地域課題の解決を図るイノベーション・エコシステムを構築し、新産業・サービスが次々と生まれるまちを実現する。</p> <p>1. 地域課題解決型未来技術実証実験支援:市内大学・研究機関を含む全国から地域課題の解決に繋がる未来技術を公募し、優れた提案を採択。課題解決の可能性を検証するために、実証実験の費用負担、公共施設をはじめとする実証フィールドの提供、市民モニター確保その他の各種支援を行う。</p> <p>2. 未来技術の社会実装に向けた市場・市民向けニーズ調査:市域で実証した未来技術を市民や市内事業所に試してもらうホームユーステストにより、その市場性を評価するとともに、未来技術の質の改善・向上を図る。</p>											
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)地域課題解決型未来技術実証実験支援 3,646,000円            (2)市場や市民ニーズ調査支援 1,000,000円</p>											
R6年度実績額	4,646,000円		国費充当額(1/2)	2,323,000円								
事業始期	令和3年4月		事業終期	令和8年3月								
指標①	KPI	地域課題解決型未来技術実証実験の支援により社会実装(実用化)に至った件数			指標担当部課等							
	設定根拠	本事業によって創出された未来技術の社会実装件数というアウトカムを把握するものであり、最先端の製品・サービスが生活にいかされた実績数を定量化したものである。また、本事業の成果として、各要素事業の実施により現れた直接の成果である。実証後すぐに社会実装されるものは少なく、実験における検証結果等の成果をもとにした、改良等の期間を必要とする場合が大いに想定されるため、複数年にわたって計測する必要がある。										
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度		
		0 件	令和2年度	0	2	2	2	3	9 件	令和7年度		
	実績値		0	2	3	3	0	8 件	評点	10		
	目標値の達成率		0.0%	100.0%	150.0%	150.0%	0.0%	88.9%				
指標②	KPI	新規創業数					指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課				
	設定根拠	新規創業数は、本事業による研究成果等の社会実装の推進の成果として直接的に示す指標であるとともに、定期的に集計される値であるため。										
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度		
		33 件	令和2年度	16	17	18	18	19	88 件	令和7年度		
	実績値		10	10	17	16	0	53 件	評点	5		
	目標値の達成率		62.5%	58.8%	94.4%	88.9%	0.0%	60.2%				

評点の平均値	R6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
7.5	<p>【地域課題解決型未来技術実証実験支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国各地からの提案16件のうち、ICTとヘルスデータ連携を活用した栄養指導促進事業等、4件の実証実験を採択及び支援した。</li> <li>・事業の認知度向上のため、SNS及びつくば駅へのポスター掲示並びにスタパイイベントでの周知を行った。</li> <li>・令和5年度採択案件のフォローアップ調査を実施した。メリット面として、幅広い部門の方から意見を得ることができた、実際の現場でデバイスが使用される環境での実証試験ができたとの意見、また、改善点として、実証を開始するための契約手続きに要する期間の短縮化、実証期間の十分な確保についての意見を得ることができた。調査結果を踏まえ、次年度の事業運用方法を見直し、公募期間の前倒しにより実証実験期間の拡大を実現した。</li> </ul> <p>【市場や市民ニーズ調査支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーソナル助産師によるデータに基づいた母子の健康伴走サポートサービス(アプリ)を、妊娠、育児期の女性28名のモニターに試用してもらい、操作性や可視化データの見にくさなど、使用感に関する課題抽出となり、改修につながった。</li> </ul>	イ:据置き	B
評価の分析	KPI進捗評価		
	課題	今後の取組(改善目標)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・府内関係部署との連携を強化し、実証実験事業に対する府内での認知度を向上させ、実証実験の成果を市の課題解決に繋げる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、府内関係部署との連携を強化し、各部署の施策における地域課題に対して、実証実験の有益性について協議する機会を持ち、連携の下で実施していく。</li> <li>・引き続き、過年度案件のフォローアップ調査を実施し、社会実装化への課題について把握する。また、スマートシティ推進に関連する案件について、先進性や革新性を有する内容であるか、また、各関連法の動向を考慮しつつ、社会実装化に向けた伴走支援について、関連部署との連携により社会実装化に向けて取り組む。</li> <li>・事業計画期間の満了を見据え、過去の事業成果を検証し、今後の事業の在り方について整理する。</li> </ul>	

## 令和6年度に実施した交付金事業における実績評価シート(③)

事業名	移動の自由と安心安全で自立した生活を支えるSociety 5.0推進事業	交付金タイプ 連携自治体	地方創生推進タイプ
			つくば市単独
事業の概要・目的	<p>①デジタルデバイド解消調査事業 小田地区及び宝阳台地区の高齢者等に対してのスマートフォン等の機器の貸与、スマホアドバイザーによる使用方法の指導等を行い、スマートフォン等の機器の使用可能者を増加させるとともに、特に効果的なデバイスの種類、対象となる年代、地域特性の情報を収集する。</p> <p>②つくば市ポータルアプリ開発・改修 行政情報等の配信や行政サービス、先端的サービスを集約し、そこから申請や利用をワンストップでアクセス可能とするインターフェースとしてつくば市ポータルアプリを整備する。</p> <p>③パーソナルモビリティシェアリング 自動走行を有するパーソナルモビリティを地区内シェアリングサービスとして導入し、自宅からバス停までの「ラストワンマイル」の移動の利便性を向上させる。</p> <p>④移動スーパー等ロケーションシステム 買い物における負担が大きい郊外において、移動スーパーの現在地、到着時間等の情報をスマートフォンで確認可能にし、買い物をスムーズに行うことができるようになる。また、医療機関、薬局、移動スーパーの連携により、遠隔診療後に処方薬を移動スーパーで受け取ることができるようになり、利便性を向上させる。</p> <p>⑤荷物配送ロボット等による買い物の利便性向上 自動配送ロボットを活用し、希望のタイミングで荷物を受け取ることができるようにする。また、自動追従型荷物搬送ロボットの活用により、荷物を持つことなく自宅まで帰ることができます。</p> <p>⑥分身ロボットを活用した障害者雇用の促進 一部の重度障害者は、移動が困難であることから、就労意欲はあるが週数時間しか勤務できないなど、社会参画の機会を得にくいため、アバターロボットを通して、自宅から接客や案内業務等を実施できる環境を整え、移動が困難な障害者も就労することで社会参画ができるようにし、インクルーシブな社会の構築を目指す。</p>		
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)デジタルデバイド解消調査事業 24,448,160円 (2)つくば市ポータルアプリ開発・改修 18,420,000円 (3)パーソナルモビリティシェアリング 22,116,824円 (4)移動スーパー等ロケーションシステム 988,548円 (5)荷物配送ロボット等による買い物の利便性向上 537,900円 (6)アバターロボットを用いた障害者雇用の促進 6,340,000円		
R6年度実績額	72,851,432円	国費充当額(1/2)	36,425,716円
事業始期	令和4年4月	事業終期	令和9年3月
指標①	KPI	移動スーパー 一か所あたりの月ごと平均利用者数	指標担当部課等
	設定根拠	本指標を測定することにより、本市の問題である都市と郊外の二極化が是正されたことを把握することができる。なお、本指標は、事業の進捗や展開状況(アプリの普及、デジタルデバイドの解消等の状況)によって逐次変移していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。	政策イノベーション部科学技術戦略課
	目標値 【年度増加分】	従前値 基準年度 R4 R5 R6 R7 R8 合計	目標年度
	26.2 人/月 令和3年度	1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 5.0 人/月	令和8年度
	実績値	2.0 -8.3 0.7 0.0 0.0 -5.6 人/月	評点 5
	目標値の達成率	200.0% -830.0% 70.0% 0.0% 0.0% -112.0%	
指標②	KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリのインストール数(つくば市の人口に対する割合)	指標担当部課等
	設定根拠	(仮称)つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、各先端的サービスを利用する上で、それらの入口となるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものであるため、本指標を測定することにより、住民の中でのスマートシティ推進事業の拡大状況を把握することができる。また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。	政策イノベーション部科学技術戦略課
	目標値 【年度増加分】	従前値 基準年度 R4 R5 R6 R7 R8 合計	目標年度
	0 人(%) 令和3年度	20,000 8.0 15,000 6.0 5,000 2.0 5,000 2.0 5,000 2.0 50,000人 20.0 %	令和8年度
	実績値	13,000 5.2 5,603 2.2 6,631 2.7 0 0.0 0 0.0 18,603人 10.1 %	評点 10
	目標値の達成率	65.0% 37.4% 132.6% 0.0% 0.0% 37.2%	

指標③	KPI	スマートフォン教室へスマホアドバイザーとして大学生が派遣された人数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	本事業により、教室自体の開催実績を測定することに加え、大学生と高齢者の世代間交流によるコミュニティの活性化について測定できるものである。なお、スマートフォン教室は、回数・年数を経ることに内容や方式を更新していくものであるため、複数年にわたって測定する必要がある。										
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度		
	17人	令和3年度	16	16	16	16	16	80人	令和8年度			
	実績値	6		13	11	0	0	30人	評点	3		
目標値の達成率			37.5%	81.3%	68.8%	0.0%	0.0%	37.5%				
指標④	KPI	分身ロボットを活用した障害者雇用の実施者数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課			
	設定根拠	分身ロボットを活用して障害者雇用を行う事業者の数を測定する。本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移するため、複数年にわたって測定する必要がある。										
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度		
	0者	令和3年度	1	1	1	1	1	5者	令和8年度			
	実績値	1		1	2	0	0	4者	評点	10		
目標値の達成率			100.0%	100.0%	200.0%	0.0%	0.0%	80.0%				
評価の分析	評点の平均値	R6年度実施内容(特記事項)						特記事項評価	総合評価			
	7.0	移動スーパー 一か所あたりの月ごと平均利用者数は、移動スーパー運営事業者側の都合により集計方法に変更があったため、従前の目標・実績値との比較が困難であるが、移動スーパー等ロケーションシステムを活用した移動スーパーの見える化は安定して実施できている。 つくば市ポータルアプリのインストール数については、アプリの新機能の利活用や、様々な事業と連携することにより、目標値を達成することができた。 スマホアドバイザーの派遣人数については、目標値より数名少ない。当初は20名程度の予定だったが、日程調整や当日の体調等で都合が合わなかったため、少し人数が減った。 分身ロボットについては、高齢者施設での施設利用者のコミュニケーションツールとして使用し、児童クラブでの見守り等での活用を新規で実施した。						イ:据置き	B			
	B											
	課題	今後の取組(改善目標)										
市民アンケート機能の具体的な活用方法の確立 ポータルアプリに対する市職員の意識向上と積極的利用 アドバイザー支援の日程を都合に応じて調整 分身ロボットを活用する事業所の確保			ポータルアプリを市民に浸透させるため、また、円滑な庁内調整に向けて市職員側でも積極的にアプリを活用する必要があることから、アプリの利活用について継続的に周知を図るとともに、関係課等へ具体的な活用を働きかける。 デジタルデバイド解消調査事業の対象人数など規模を拡大する。またスマートフォン教室だけでなく、気軽に相談できるよろず相談窓口も開設し、気軽に相談できる機会を増やすとともに、支援する場の裾野を広げることで、アドバイザーの活躍の場も広げていく。 分身ロボットを活用する事業所や新規で活用を検討している事業所に出向き、事業所側の人材ニーズ等を丁寧に聞き取ることで、更なる活用に繋げる。									

## 令和6年度に実施した交付金事業における実績評価シート(④)

事業名	「科学技術のまち、つくば」の情報発信力強化及び探求・STEAMの学び推進プロジェクト	交付金タイプ	地方創生推進タイプ						
		連携自治体	つくば市単独						
事業の概要・目的	<p>① 地域内連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 市内大学・研究機関とのネットワークを活用し、情報発信力の強化、科学技術を体験する機会の創出を図る。 具体的には、地域で活躍する研究者の発信や研究者と直接コミュニケーションをとることができる体験型イベントを開催するとともに、地域で開催される科学技術関連イベント情報を各種SNSに登録された属性情報を活用してターゲティング広告として配信することで、当該情報に興味・関心を持つ層に対する情報配信を強化する。</p> <p>② デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 異分野への興味関心、俯瞰的な視野で物事をとらえる力、試行錯誤をしながら課題に立ち向かっていく能力と意欲を養うことを目的に、子どもたちの好奇心を探求活動の入口としたSTEAM教育を、地域が有する研究者と科学技術資源を学習素材として市内小中学校へ展開する。また、児童・生徒の理解を助ける役割を担うサイエンスコミュニケーター人材を地域で確保するための取組を実施する。</p>								
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)官民連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 2,648,393円 (2)デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 7,553,000円</p>								
R6年度実績額	10,201,392円	国費充当額(1/2)	5,100,696円						
事業始期	令和5年4月	事業終期	令和8年3月						
KPI	問題や課題を自分の力で解決しようとする児童・生徒の割合								
設定根拠	STEAM教育を通じて子どもたちに育成してもらいたい能力である問題発見力・課題解決力の習得度合いを、市が全小中学校・義務教育学校の児童・生徒に対して毎年度実施する「幸せな学校づくりアンケート」で測定する。本事業が子どもの問題発見力・課題解決力の向上にどの程度効果があったのかを定量的に把握するものであり、本事業の効果を計測する総合的なアウトカム指標である。								
目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
	43.10 %	令和4年度	-	0.50	0.65	0.85	-	2.00 %	令和7年度
	実績値		-	1.95	10.38	0.00	-	12.33 %	評点
	目標値の達成率		-	390.0%	1596.9%	0.0%	-	616.5%	

指標②	KPI	科学技術関連イベント情報ホームページの平均月間閲覧数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	発信する情報の詳細はホームページ(つくばSTEAMコンパス)へ誘導して参照する形式となるため、本事業によりホームページ閲覧数を計測することは、情報への到達率の向上を定量的に示す指標となる。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
	6,000	回	令和4年度	-	100	150	300	-	550	回 令和7年度
	実績値			-	-187	4,070	0	-	3,883	回 評点 10
	目標値の達成率			-	-187.0%	2713.3%	0.0%	-	706.0%	

  

指標③	KPI	STEAM教育授業の受講人数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課	
	設定根拠	受講人数は、本事業による成果を直接的に示す指標である。								
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
	330	人	令和4年度	-	560	670	850	-	2,080	人 令和7年度
	実績値			-	437	580	0	-	1,017	人 評点 5
	目標値の達成率			-	78.0%	86.6%	0.0%	-	48.9%	

評価の分析	評点の平均値	R6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	KPI進捗評価			
	8.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>市ホームページのサイエンスインフォメーションや広報紙への情報掲載等、研究機関の広報支援を行うことで、市民にもメリットのある研究機関に関する情報発信を行うことができた。「つくば女性研究者支援協議会」事務局を務める筑波大学と連携のもと、地域の研究者をインタビュー記事+マンガで紹介する事業「つくばで輝く研究者」を5回(5名分)実施した。また、本事業で2023年から2024年の2年間で記事化した10名分のインタビュー記事について冊子化し、3月に開催した「科学の甲子園全国大会」に参加した選手団(高校生)に配付した。</li> <li>地域が有する研究者と科学技術資源を学習素材としたSTEAM教育を市内小中義務教育学校のうち6校で実施した。また、全国の女子中学生に多様な理系分野の魅力及び女性研究者の活躍を発信するイベントを8月と12月に開催した。</li> <li>LINEやInstagram等に登録された属性情報を活用し、進路選択に悩む年代層(主に高校生～大学生)に対して、上述のコンテンツやイベントの認知度向上のためのSNS広告を9月、10月、12月、3月に配信した。</li> <li>研究機関の連携強化と、より多くの研究者に事業を理解してもらい、STEAM教育への参加につなげるため、「つくばSTEAM コンパス」の事業説明会を研究者向けに行った。</li> </ul>	イ:据置き	B
課題		今後の取組(改善目標)		
① 地域内連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 地域で開催される科学技術関連イベントの情報を効率的に集め、発信していくための業務フローが確立できていない。		① 地域内連携による「科学技術の街つくば」を感じる機会創出 市ホームページによるサイエンスインフォメーションに掲載する科学イベントの情報を、市公式アプリ「つくスマ」による配信で行う仕組みを整える。また、STEAMコンパスのポータルサイトをリニューアルし、研究者紹介のコンテンツ化、イベント開催の周知等活用の促進・拡大に取り組むとともに、リニューアル後にSNS広告を行うことで、STEAM教育への興味・関心を持つ層へのアクセス数の向上に努める。		
② デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 STEAM授業を実施するための授業内容、評価基準、Teamsの活用法といった授業フォーマットはある程度確立することができているが、それを使ってSTEAM授業の実施校数を拡大させ、持続的に展開しているために必要な協力研究者の数が不足しており、新規開拓が必要である。		② デジタルを活用した市内小中学校でのSTEAM教育の展開 初計画通り、STEAM授業実施校の拡大を図っていく。 また、協力研究者の確保に向けて、市内の大学・研究機関を対象とした事業説明会を開催し、事業の周知を図り、興味・関心を持ってくれた研究者のリクルート活動を行う。		

## 令和4年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑤)

事業名	旧筑波東中学校への自転車拠点及びジオパーク中核拠点整備	交付金タイプ	地方創生拠点整備タイプ							
		連携自治体	つくば市単独							
事業の概要・目的	<p>旧筑波東中学校のリノベーション工事を実施し、自転車拠点施設及びジオパーク中核拠点施設を整備する。つくば市が公的施設として運営することで、市街地の機能が失われつつあるという課題をはじめ各種の課題を解決するとともに、旧筑波町エリアを中心とした地域振興を図り、ひいては近隣自治体を含めた広域での地域振興を目指す。</p> <p>①自転車拠点施設 つくば霞ヶ浦りんりんロード沿いに自転車拠点を整備することで、サイクリストの利便性向上と共に、サイクリストが筑波町エリアを通過点とせずに足を止め、消費活動を行うきっかけを作る。また、レンタサイクル事業を活用し、サイクリング用自転車を所有していないファミリー層等を筑波山周辺の飲食店や観光スポット等へ誘導する。</p> <p>②ジオパーク中核拠点施設 展示物やツアー等のプログラムを通して地域資源の価値を広め、地域の魅力度向上を図るとともに、地域の方々や子供たちがその価値や魅力を知ることで、地域に誇りを持ち、住み続け、活動したいという気持ち(シビックプライド)の醸成に繋げる。また、筑波山地域ジオパークエリア内の物産品の販売及びPRの実施を予定しており、定期的な物産販売イベントや物産品を絡めたツアーを開催することで、産業振興を図る。</p> <p>③駐車場 駐車場にパーク＆サイクルライド機能を持たせ、サイクリストによる周辺施設の駐車場占拠を解消するとともに、校舎内に休憩・シャワー機能を持たせ、つくば市がサイクリングの先着点となるよう誘導することで旧筑波町エリアへの新たな人流れを作り出す。</p> <p>④BMXレーシングコース グラウンドにBMXレーシング用コースを整備し、練習用や大会開催用に有料で貸し出すことにより、練習時であれば長時間(宿泊を伴う)の練習が多いスポーツのため飲食や宿泊等の地域振興につながり、大会時であれば選手や関係者、観客等により筑波山周辺の宿泊施設への多量の需要が発生すると想定されるため、地域経済への大きな貢献につながる。</p>									
交付金を充当する事業経費(実績額)	交付金の対象となる事業年度は令和4年度であるため、令和6年度における交付金を充当する事業経費は0円。									
R6年度実績額	0円	国費充当額	0円							
事業始期	令和4年4月	事業終期	令和5年3月							
KPI	(仮称)自転車拠点・筑波山地域ジオパーク中核拠点施設利用者数	指標担当部課等	経済部ジオパーク室 都市計画部サイクルコミュニティ推進室							
設定根拠	本事業の目的は旧筑波東中学校に集客を図り、観光等周辺産業への経済波及効果をもたらす拠点として整備することである。施設の利用者数は、旧筑波東中学校の集客数を示す指標となるものであり、定期的に集計される値である。									
指標①	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度
	目標値 【年度増加分】	0人	令和3年度	0	2,350	4,750	2,550	2,350	12,000人	令和8年度
	実績値	0		9,811	8,235	0	0	18,046人		評点
	目標値の達成率	0.0%		417.5%	173.4%	0.0%	0.0%	150.4%	10	

指標②	KPI	筑波山地域ジオパーク中核拠点施設における認定ジオガイドの活動実績 (ガイド実施延べ人)						指標担当部課等	経済部ジオパーク室 都市計画部サイクルコミュニティ推進室		
	設定根拠	本事業の目的の一つとして人材育成があり、認定ジオガイドの活動実績は人材育成の効果を定量的に測る指標となる。また、活動実績にはジオパーク拠点施設で開催するツアーやイベントの開催数を含み、間接的に周辺地域での経済活動の指標とすることが可能である。									
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度	
		0 人	令和3年度	0	140	68	104	104	416 人	令和8年度	
	実績値		0	80	137	0	0	217 人	評点	10	
	目標値の達成率		0.0%	57.1%	201.5%	0.0%	0.0%	52.2%			
指標③	KPI	BMXレーシングコース利用料収入						指標担当部課等	経済部ジオパーク室 都市計画部サイクルコミュニティ推進室		
	設定根拠	経済効果を直接的に測るものであり、客観的な指標としてふさわしい。									
	目標値 【年度増加分】	従前値	基準年度	R4	R5	R6	R7	R8	合計	目標年度	
		0 円	令和3年度	0	1,650,000	3,300,000	2,475,000	825,000	8,250,000 円	令和8年度	
	実績値		0	2,378,500	1,140,000	0	0	3,518,500 円	評点	0	
	目標値の達成率		0.0%	144.2%	34.5%	0.0%	0.0%	42.6%			

評価の分析	評点の平均値	R6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価			
	KPI進捗評価	<b>6.7</b> <p>【ジオパーク中核拠点施設】            ・令和6年7月にオープンからの来場者数が1万人を突破した。            ・施設を活用したジオガイド活動の活性化を図ることができた。            ・ガイドスキルアップ講座を8回開催し、その中で施設を起点としたまち歩きジオツアーを企画し、日本ジオパーク再認定審査の際に実施することができた。            ・筑波山地域ジオパークの認知度向上を目的に、筑波山をテーマとした絵本を作成し、構成6市の子どもたちに届けることができた。            ・校舎北側にあった駐輪場の撤去工事を完了した。</p> <p>【自転車拠点施設】            指定管理者制度を導入し、運営管理を実施した。指定管理者の事業としてBMXレーシングシリーズを開催するほか、大規模な大会の誘致も行った。また、昨年に引き続き、自転車イベント「PEDAL DAY GO」も開催し、昨年度以上の来場があった。</p>	イ:据置き	<b>C</b>			
課題		今後の取組(改善目標)					
<p>【ジオパーク中核拠点施設】            ・老朽化した施設のうち、優先度を設定し修繕を行う必要がある。            ・筑波山地域ジオパークの認知度向上に向けた取組を行う必要がある。</p> <p>【自転車拠点施設】            ・自転車拠点として、BMXレーシングコース利用者以外のサイクリスト等の利用も増やしていく必要がある。            ・当初想定よりBMXコースの利用収入が低調なため、施設やコースの認知度向上・利用者増加につながる取組を行う必要がある。</p>		<p>【ジオパーク中核拠点施設】            ・渡り廊下の撤去、武道場及びプールの解体、校舎棟の屋上防水等について検討を進める。            ・絵本を活用したイベント等を開催し、筑波山地域ジオパークの認知度向上に繋げる。</p> <p>【自転車拠点施設】            引き続き指定管理者と連携して運営を実施するほか、指定管理者の専門的な知見を活かし、より大規模な大会の誘致や一般サイクリストへ訴求する施策を実施する。</p>					

## 令和4年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑥)

事業名	(仮称)つくば市ポータルアプリ整備事業	交付金タイプ	デジタル実装タイプ											
		連携自治体	つくば市単独											
事業の概要・目的	行政情報等の配信やスマートシティサービスのインターフェースとして、令和4年4月にリリースした「(仮称)つくば市ポータルアプリ」に機能(デジタルID・市民レポート機能・機械翻訳機能の向上、インターネット投票・アンケートシステム、移動スーパー口ケーションシステム・図書館カード機能)を追加し、更なる住民の生活利便性や、市役所業務の効率化を図る。													
交付金を充当する事業経費(実績額)	交付金の対象となる事業年度は令和4年度であるため、令和6年度における交付金を充当する事業経費は0円。													
R6年度実績額	0円	国費充当額	0円											
事業始期	令和4年4月	事業終期	令和5年3月											
KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリの延べダウンロード数(つくば市の人口に対する割合)	指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課											
設定根拠	(仮称)つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、他事業で実施する先端的なサービスを利用する際の入口になるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものである。本指標を測定することにより、本アプリの利用状況を把握できるだけでなく、住民の中でのスマートシティ推進事業の拡大状況を把握することができる。また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。※2026年度までに20%を目指す。													
指標①	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度				
	目標値	0 人(%)	令和3年度	-	20,000	8.0	35,000	14.0	40,000	16.0	-	40000人	16.0 (%)	令和6年度
	実績値	-	13,000	5.2	18,603	7.4	25,234	10.1	-	25234人	10.1 (%)	評点	3	
	目標値の達成率	-	65.0%	53.2%	63.1%	-	63.1%	-	63.1%					

指標 ②	KPI	アンケートシステムにより収集した意見を政策に反映させた件数							指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課
	設定根拠	アンケートシステムの整備により、住民からの意見を収集することが容易になり、それらを政策に反映させることにより、多様な住民ニーズに対応した政策の実施につながる。本指標を測定することで、アプリの整備を起点とした多様なニーズへの対応状況を把握でき、住民生活の改善状況も把握することができる。また、本指標は事業の進捗や展開状況によって逐次変移していくものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。								
目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
	0 件/年	令和3年度	-	5	5	5	-	5 件/年	令和6年度	
	実績値		-	0	0	1	-	1 件/年	評点	0
	目標値の達成率		-	0.0%	0.0%	20.0%	-	20.0%		
目標値	KPI	(仮称)つくば市ポータルアプリの利用者満足度							指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課
	設定根拠	利用者からの意見という客観的な数値であり、本事業によってもたらされる直接的な数値である。本指標により、多様なニーズを持つ住民へ十分な情報提供ができているか、アプリを利用することで住民の利便性が向上しているかといった効果を測定することができる。本指標は、本アプリのダウンロード数等によって逐次変移するものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。 ※アプリを利用して「満足」と回答した人の割合								
	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
	0 %	令和3年度	-	70	75	80	-	80 %	令和6年度	
	実績値		-	0	0	71	-	71 %	評点	5
目標値	目標値の達成率		-	0.0%	0.0%	88.8%	-	88.8%		
	KPI	市民レポートの件数							指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課
	設定根拠	市民からのレポート件数という定量的な数値であり、本事業で整備されるシステムのため直接的な数値である。本指標によって、本来市職員が見回って点検を行っていたものが、住民の目でも行われるようになり、業務の省力化について測定することができる。本指標は、本アプリのダウンロード数等によって逐次変移するものであるため、複数年に渡って測定する必要がある。								
	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
	0 件/年	令和3年度	-	200	525	800	-	800 件/年	令和6年度	
目標値	実績値		-	0	0	305	-	305 件/年	評点	0
	目標値の達成率		-	0.0%	0.0%	38.1%	-	38.1%		

評点の平均値	令和6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価	
評価の分析 KPI進捗評価	2.0  <p>・令和6年度は前年度との目標値の差5,000人(40,000人–35,000人)を上回る6,631人(25,234人–18,603人)の新規ユーザーを獲得したが、令和5年度までのダウンロード数が当初の見込みよりの増加が実現できなかったことから、目標値に達することができなかった。</p> <p>令和7年度中にはマイコミュニティ機能、市民レポート機能等の利用促進について関係部署との連携を一層強化する予定。新機能のスムーズな運用開始や市のさまざまな事業でアプリの活用方法の周知を行い、更なるダウンロード数の増加を推進する。</p> <p>・アプリにアンケートシステムを実装し、満足度を計測したが、目標値に達することができなかった。</p> <p>今後、周知徹底を図るとともに、質問内容もできる限り簡易的かつ分かりやすいものとすることで、より多くのユーザーから気軽に回答いただけるよう工夫し実施する。また、本結果を踏まえ、意見を集約、整理しアプリ改修を行い利用者満足度の向上に繋げる。また、集約した意見については内容を精査し、公開することで市政の透明性向上に努める。</p> <p>・市民からの問い合わせや、現場職員へのヒアリングを通じて意見を収集し政策(アプリの改修)に反映した。しかしながら、利活用方法について府内での調整に時間を要し、運用開始が予定より遅延してしまったことから目標値に達することができなかった。令和6年度末にアンケートシステムを活用したが、アンケートの締め切りが年度末であったため実績値を計測できなかった。</p> <p>実施したアンケート結果をもとに令和7年度に意見を精査・分析したうえで、今後の政策へ反映する予定。また関係部署との連携を一層強化し、これまでのアンケート項目に加え、さらなる新しい投稿テーマを積極的に模索し、政策に反映できるよう促進する。</p>	イ:据置き	E	
	E			
課題		今後の取組(改善目標)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルアプリへ追加した市民アンケート機能の具体的な活用方法の確立</li> <li>・ポータルアプリに対する市職員の意識向上と積極的利用</li> <li>・市民レポートについては、活用可能なテーマが限定的であった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポータルアプリを市民に積極的に利用してもらうために、分かりやすい広報を行うとともに、図書館カードのように見せるだけで使えるようなわかりやすく、身近な機能を追加することで利用者増に繋げる。</li> <li>・ポータルアプリを市民に浸透させるため、また、円滑な府内調整に向けて市職員側でも積極的にアプリを活用する必要があることから、アプリの利活用について継続的に周知を図るとともに、関係課等へ具体的な活用を働きかける。</li> <li>・市民レポートについては、府内各部署との連携を一層強化し、活用できるテーマの拡充を図る。</li> </ul>		

## 令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑦)

事業名	つくば市ポータルアプリ整備・改修事業	交付金タイプ	デジタル実装タイプ
		連携自治体	つくば市単独
事業の概要・目的	令和4年4月にリリースしたポータルアプリを改修・機能追加(AIチャットボット、認証型グループ配信機能、職員ツール緊急時対応機能(災害対応等)、ユーザーID指定配信機能、対応言語追加、コミュニティバスロケーション機能)し、住民の情報格差の是正、ひいては生活利便性の向上や市政への住民参加の促進、市役所業務の効率化を図る。		
交付金を充当する事業経費(実績額)	交付金の対象となる事業年度は令和5年度であるため、令和6年度における交付金を充当する事業経費は0円。		
R6年度実績額	0円	国費充当額	0円
事業始期	令和5年4月	事業終期	令和6年3月
KPI	つくば市ポータルアプリの延べダウンロード数		
設定根拠	つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、他事業で実施する先端的なサービスを利用する際の入口になるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものである。なお、現在のプッシュ通知機能にAIチャットボットを追加することで、行政DXの促進につながり、KPI達成に寄与することができる。		
目標値	従前値 0 人	基準年度 令和4年度	R3 -      R4 -      R5 37,500      R6 41,100      R7 45,000      合計 45,000 人      目標年度 令和7年度
	実績値 -      -      18,603      25,234      0      25,234 人		
	目標値の達成率 -      -      49.6%      61.4%      0.0%      56.1%		
指標①	評点	3	

指標②	KPI	市民レポートの件数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課		
	設定根拠	本指標によって、本来市職員が見回って点検を行っていたものが、住民の目でも行われるようになり、業務の省力化について測定することができる。なお、つくスマのダウンロード数が増加することで、市民レポート件数も増加すると考える。									
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 件/年	令和4年度	-	-	560	820	900	900 件/年	令和7年度	
	実績値			-	-	0	305	0	305 件/年	評点	0
指標③	目標値の達成率			-	-	0.0%	37.2%	0.0%	33.9%		
	KPI	つくば市ポータルアプリの利用者満足度						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課		
	設定根拠	本指標により、多様なニーズを持つ住民へ十分な情報提供ができているか、アプリを利用することで住民の利便性が向上しているなどの効果を測定することができる。なお、AIチャットボット機能の追加や対応言語拡充により、満足度向上に結び付くことが期待される。									
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 ポイント	令和4年度	-	-	78	82	85	85 ポイント	令和7年度	
	実績値			-	-	0	71	0	71 ポイント	評点	5
	目標値の達成率			-	-	0.0%	86.6%	0.0%	83.5%		
指標④	KPI	ユーザーの意見を次年度事業計画に反映させた件数						指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課		
	設定根拠	本指標を測定することで、アプリの整備を起点とした多様なニーズへの対応状況を把握でき、住民生活の改善状況も把握することができる。									
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 件/年	令和4年度	-	-	6	6	6	6 件/年	令和7年度	
	実績値			-	-	0	1	0	1 件/年	評点	0
	目標値の達成率			-	-	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%		

評価の分析	評点の平均値	令和6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	KPI進捗評価			
E	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度は前年度との目標値の差5,000人(40,000人–35,000人)を上回る6,631人(25,234人–18,603人)の新規ユーザーを獲得したが、令和5年度までのダウンロード数が当初の見込みよりの増加が実現できなかつたことから、目標値に達することができなかつた。</li> <li>利活用方法について府内調整に時間を要し、運用開始時期が予定より遅延してしまつたため目標値を達成することができなかつた。</li> </ul> <p>令和7年度は具体的かつ実効性のある計画の再構築を図るとともに、他部署との連携を強化するため、定期的なミーティングや情報共有ツールの活用により、コミュニケーションを活性化し、体制を整える。さらに、多様な市民レポートが円滑に実施できるよう、関係部署との調整を重ね、体制の整備に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリにアンケートシステムを実装し、満足度を計測したが、アンケートシステムの利活用方法について府内調整に時間を要し、運用開始が予定より遅延してしまつたことから十分な調査ができず、目標値に達することができなかつた。</li> </ul> <p>今後、周知徹底を図るとともに、質問内容もできる限り簡易的かつ分かりやすいものとすることで、より多くのユーザーから気軽に回答いただけるよう工夫し実施する。また、本結果を踏まえ、意見を集約・整理しアプリ改修を行い利用者満足度の向上に繋げる。また、集約した意見については内容を精査し、公開することで市政の透明性向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民からの問い合わせや、現場職員へのヒアリングを通じて意見を収集し政策(アプリの改修)に反映した。しかしながら、利活用方法について府内での調整に時間を要し、運用開始が予定より遅延してしまつたことから目標値に達することができなかつた。令和6年度末にアンケートシステムを活用したが、アンケートの締め切りが年度末であったため実績値を計測できなかつた。</li> </ul> <p>実施したアンケート結果をもとに令和7年度に意見を精査・分析したうえで、今後の政策へ反映する予定。また関係部署との連携を一層強化し、これまでの投稿テーマに加え、さらなる新しい投稿テーマを積極的に模索し、政策に反映できるよう促進する。</p>	イ:据置き	E
課題		今後の取組(改善目標)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリへ追加した市民アンケート機能の具体的な活用方法の確立</li> <li>ポータルアプリに対する市職員の意識向上と積極的利用</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリを市民に積極的に利用してもらうために、分かりやすい広報を行うとともに、図書館カードのように見せるだけで使えるようなわかりやすく、身近な機能を追加することで利用者増に繋げる。</li> <li>ポータルアプリを市民に浸透させるため、また、円滑な府内調整に向けて市職員側でも積極的にアプリを活用する必要があることから、アプリの利活用について継続的に周知を図るとともに、関係課等へ具体的な活用を働きかける。</li> </ul>		

## 令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑧)

事業名	AIオンデマンド送迎配車サービス導入による地域公共交通の高度化	交付金タイプ	デジタル実装タイプ							
		連携自治体	つくば市単独							
事業の概要・目的	医療機関等を目的地とするサービスを新たに導入し、当該ルートにおける予約をスマートフォンアプリから行えるようにする。加えて、AIの活用によるルートマッチングを行うことで経路最適化を図り、「つくタク」事業を高度化し、利用者のさらなる利便性向上・運行の効率化につなげる。									
交付金を充当する事業経費(実績額)	交付金の対象となる事業年度は令和5年度であるため、令和6年度における交付金を充当する事業経費は0円。									
R6年度実績額	0円	国費充当額	0円							
事業始期	令和5年4月	事業終期	令和6年3月							
指標①	KPI	AIオンデマンド送迎配車サービスの利用者数			指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課				
	設定根拠	住民の自家用車による移動に替え、本サービスの利用による移動者を増やすことが本事業の目的であるため、事業成果の計測に適している。 R3年度つくタク利用者数実績:48,380人								
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 人	令和3年度	-	-	125	250	375	375 人	令和6年度
	実績値		-	-	384	0	0	0 人	評点	0
	目標値の達成率		-	-	307.2%	0.0%	0.0%	0.0%		
指標②	KPI	AIオンデマンド送迎配車サービスの利用者満足度					指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課		
	設定根拠	本指標により、日常的な移動手段の乗り換え(自家用車から公共交通)に対する住民の意向を把握することができるため。								
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度
		0 %	令和3年度	-	-	88	89	90	90 %	令和7年度
	実績値		-	-	81	0	0	0 %	評点	0
	目標値の達成率		-	-	92.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

評価の分析	評点の平均値	令和6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価		
	0.0	<p>・利用者数、利用者アンケートについて R5年度に一部地域で運用した結果、明らかとなった課題を解決すると共に、対象地域を市内全域に拡大して実装することが決定し、業者の選定はプロポーザル方式で行う方針となつた。これにより、R6年度は、実装に向けた当該プロポーザルの準備及び関係機関との調整を進めており、サービスの実証は実施していないため、数値がない。</p>	イ:据置き	E		
	KPI進捗評価					
	E					
課題		今後の取組(改善目標)				
<p>・サービスのユーザーインターフェース等の使い勝手については利用者の意見を分析し、使い勝手の改善を継続的に行っていく。 ・新規利用者の周知のため、スマートフォンを使用しての予約方法についても丁寧に周知を続ける必要がある。</p>		<p>・利用者の多い病院等への出張説明会の実施等、利用者に寄り添った方法でウェブ予約への移行を行っていく。 ・スマートフォンでの予約方法がわからない人をなくすため、スマホ教室を継続して開催する。</p>				

## 令和5年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑨)

事業名	インターネット投票システム構築事業	交付金タイプ	デジタル実装タイプ								
		連携自治体	つくば市単独								
事業の概要・目的	本市では、「スーパーシティ型国家戦略特別区域」における取組として「インターネット投票」の実現を掲げている。令和5度中にインターネットによる投票を可能にするためのシステムを構築するとともに、模擬投票を行い、運用及びシステム上の不備を洗い出し、改修を施すことで、令和6年度に行われる市長・市議会議員選挙での本格導入に備える。										
交付金を充当する事業経費(実績額)	交付金の対象となる事業年度は令和5年度であるため、令和6年度における交付金を充当する事業経費は0円。										
R6年度実績額	0円	国費充当額	0円								
事業始期	令和5年4月	事業終期	令和6年3月								
KPI	つくば市ポータルアプリの延べダウンロード数										
設定根拠	つくば市ポータルアプリは、自身に関わる各種情報を受け取ることに加え、他事業で実施する先端的なサービスを利用する際の入口になるものであり、住民のタッチポイントとして重要なものである。										
指標①	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 人	令和4年度	-	-	35,000	40,000	45,000	45,000 人	令和7年度	
	実績値		-	-	18,603	25,234	0	25,234 人	評点	3	
	目標値の達成率		-	-	53.2%	63.1%	0.0%	56.1%			
	KPI	模擬投票の投票率					指標担当部課等	政策イノベーション部科学技術戦略課			
指標②	設定根拠	本サービスの利便性や認知度等について測定できる指標であり、本事業の実施効果を直接的に表すものであるため。									
	目標値	従前値	基準年度	R3	R4	R5	R6	R7	合計	目標年度	
		0 %	令和4年度	-	-	15	20	25	25 %	令和7年度	
	実績値		-	-	0	11	0	11 %	評点	3	
	目標値の達成率		-	-	0.0%	55.0%	0.0%	44.0%			

評価の分析	評点の平均値	令和6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価		
	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくば市ポータルアプリのインストール数については、アプリの新機能の利活用方法について、府内調整に時間を要し、運用開始が予定より遅延しているため目標値に達しなかった。</li> <li>模擬投票については、投票環境向上のための取組としてオンデマンド型移動期日前投票所実証を優先したため、インターネット投票による模擬住民投票が実施できなかった。なお、本事業で整備したインターネット投票環境を活用し、主に視覚障がい者を対象とした投票UI/UX検証を目的とした投票体験会を実施した。</li> </ul>	イ:据置き	D		
	KPI進捗評価					
	D					
課題		今後の取組(改善目標)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリへ追加した市民アンケート機能の具体的な活用方法の確立</li> <li>ポータルアプリに対する市職員の意識向上と積極的利用</li> <li>インターネット投票環境を活用した模擬投票については、投票テーマに対する市民関心の度合いが限定的であったことから、投票率の向上には至らなかったと考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ポータルアプリを市民に積極的に利用してもらうために、分かりやすい広報を行うとともに、多様性に配慮し、翻訳言語を追加することで利用者増に繋げる。</li> <li>ポータルアプリを市民に浸透させるため、また、円滑な府内調整に向けて市職員側でも積極的にアプリを活用する必要があることから、アプリの利活用について継続的に周知を図るとともに、関係課等へ具体的な活用を働きかける。</li> <li>より市民の関心を集めやすい投票テーマの設定に努め、関心領域を的確に把握し、テーマ選定に反映する。実際の選挙と同様に、投票入場券を郵送するなど、投票行為を「自分事」として認識してもらえるような仕組みを実施し、参加意識の醸成を図る。</li> </ul>				

## 令和6年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑩)

事業名	議場オンライン議会対応のためのディスプレイ設置事業	交付金タイプ	デジタル実装タイプ							
		連携自治体	つくば市単独							
事業の概要・目的	<p>本市は市議会の認知度が低いこと及び市民の市政参加機会が少ないことが課題であるため、議場にディスプレイを設置し、議場での議員の様子に加えてオンライン経由で質問する議員の映像や、質問時に使用する資料等を映し出すことで視認性を改善し、市民の市政参加意欲を向上させる。また、本会議のオンライン中継においても、資料の内容等を放映することで、議場に来場できない市民にもより分かりやすく本会議を公開し、幅広い市民に市政参加への機会を創出することができる。</p>									
交付金を充当する事業経費(実績額)	<p>(1)ディスプレイ設置費 9,064,000円        (2)配信セット設置費 869,000円        (3)配信用PC、資料共有用PC 352,000円        (4)質問席無線接続機器(質問資料用) 363,000円</p>									
R6年度実績額	10,648,000円	国費充当額(1/2)	5,324,000円							
事業始期	令和6年4月	事業終期	令和7年3月							
KPI	質問資料表示議員数									
設定根拠	質問資料投影回数を計測することで、本整備事業により整備した機器の活用状況を測ることが可能となる。また、ディスプレイ設置により、これまで質問時に資料を使用していなかった議員に対しても資料使用促進になるため、本会議の見える化につながると考えられる。									
指標①	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度
	目標値	0 人	令和5年度	-	8	10	20	-	38 人	令和8年度
	実績値	-		28	0	0	-	28 人	評点	10
	目標値の達成率	-		350.0%	0.0%	0.0%	-	73.7%		

指標②	KPI	本会議年間傍聴者数						指標担当部課等	議会局議会総務課		
	設定根拠	本会議の傍聴者数の増加がみられた場合、議場内へのディスプレイ設置による傍聴者増の要因とみなすことができるため。									
指標③	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度	
		0 人	令和5年度	-	200	250	300	-	300 %	令和8年度	
	実績値			-	301	0	0	-	301 %	評点	10
	目標値の達成率			-	150.5%	0.0%	0.0%	-	100.3%		
指標④	KPI	傍聴者アンケート(ディスプレイ満足度)						指標担当部課等	議会局議会総務課		
	設定根拠	傍聴者を対象とし、ディスプレイ設置の満足度を回答してもらうことで本事業の市民サービスの向上具合を直接的に観測することが可能となるため。									
	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度	
		0 %	令和5年度	-	50	60	70	-	70 %	令和8年度	
	実績値			-	70	0	0	-	70 %	評点	10
	目標値の達成率			-	140.0%	0.0%	0.0%	-	100.0%		
指標⑤	KPI	市政に市民の声が生かされていると思うと回答する市民の割合						指標担当部課等	議会局議会総務課		
	設定根拠	傍聴者がまた傍聴に来たいと考える市民が増えたかを測定することで、議場ディスプレイへの映像放映により議場内でのやり取りが分かりやすくなり、市民が市政に参加していると実感できる機会の増加に寄与したと考えるため。									
	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度	
		0 %	令和5年度	-	28	30	32	-	32 %	令和8年度	
	実績値			-	69	0	0	-	69 %	評点	10
	目標値の達成率			-	246.4%	0.0%	0.0%	-	215.6%		

評価の分析	評点の平均値	R6年度実施内容(特記事項)	特記事項評価	総合評価
	KPI進捗評価			
	10.0  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>議場ディスプレイ設置後の本会議において、質問時に資料を表示した議員数は目標値の倍以上となった。システムの使用者である議員に対し、職員が個別で事前レクを行うことで議員側の心理的障壁を下げる等取組の効果と考えられる。</li> <li>本会議傍聴者数も目標値を達成した。議場ディスプレイの設置後に行なったホームページでの案内やプレスリリースの発出等の周知を行なったためとみられる。</li> <li>傍聴者向けアンケートにおける、ディスプレイ満足度及び再度の議会傍聴意向の割合といった両指標において目標値を達成した。議会活動の様子を大画面で表示することについて、高齢者層を中心とする傍聴者から評価を得ている。</li> </ul>	イ:据置き	A
課題		今後の取組(改善目標)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>傍聴者の年齢層については、比較的高齢である人々の来場が目立つ。更なる議会活動の認知度向上を目指すために、より多様な年代層へのアプローチが課題となっている。</li> <li>議場ディスプレイへの資料表示について、操作主体である議員自身による資料表示方法の習熟度向上による議会活動の活性化の余地がある。</li> <li>システム全体を運用する議会局側としても、より効果的な表示方法について研究・改善の余地を残しているものと考えている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>本会議傍聴者の年齢層について、より幅広な年齢層を対象としたアプローチを行う。ホームページへの掲載や広報広聴委員会との連携で行なう周知広報活動に加え、市の広報部局と連携を行い、低年齢層や青少年を対象とした市民への議会活動周知を行う。また、他自治体との情報共有を密に行い、優れた事例は当市でも検討・実施する。</li> <li>議場ディスプレイへの資料表示に関しては、引き続き議員と綿密なやり取りを続け、そのニーズ聴取の結果によってはシステム担当の業者との打合せを行うなどして、より最適な設定を検討し適宜改善を図る。</li> <li>令和7年度も引き続きアンケートを実施し、市民の意向を把握することで、より良い形での議場ディスプレイの運用に取り組む。</li> </ul>		

## 令和6年度に実施した交付金事業における実績評価シート(⑪)

事業名	地域連携で移動の足を確保するためのモビリティサービス基盤の構築	交付金タイプ	デジタル実装タイプ							
		連携自治体	つくば市、牛久市、下妻市、土浦市、茨城県							
事業の概要・目的	ドライバー不足等に起因する公共交通の減便や廃線により、住民や来訪者の移動に制約が生じている。課題解決のため、1種免許ドライバーの募集・育成・管理をワンストップで行う公共ライドシェアPFの構築及び配車効率を向上させるAIオンデマンド配車システム導入を4市の広域連携で実施。これにより、住民や来訪者の自由な移動を実現させる。									
交付金を充当する事業経費(実績額)	(1)ドライバーバンク構築(自家用有償) 27,471,173円 (2)エリアオンデマンド運行費用 5,786,372円 (3)エリアオンデマンド構築 34,930,564円 (4)共通経費 9,989,018円									
R6年度実績額	78,177,127円	国費充当額(3/4)	56,632,845円							
事業始期	令和6年4月	事業終期	令和7年3月							
指標①	KPI	利用者数			指標担当部課等	都市計画部総合交通政策課				
	設定根拠	新たなサービスにおいて受容性を検証する上で最も重要と判断したため。								
	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度
		0 人	令和5年度	-	600	1,800	3,000	-	3,000 人	令和8年度
	実績値		-	53	0	0	-	53 人	評点	0
	目標値の達成率		-	8.8%	0.0%	0.0%	-	1.8%		
指標②	KPI	リピート率(初回利用のお客様が翌月も複数回当該サービスを利用継続する割合)			指標担当部課等	都市計画部総合交通政策課				
	設定根拠	「利用者」の継続利用率も「利用者数」と同様に重要指標と判断したため。								
	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度
		0 %	令和5年度	-	30	35	40	-	40 %	令和8年度
	実績値		-	37	0	0	-	37 %	評点	10
	目標値の達成率		-	123.3%	0.0%	0.0%	-	92.5%		

指標③	KPI	満足度							指標担当部課等	都市計画部総合交通政策課		
	設定根拠	新規サービスの定着にはお客様満足度が最も重要な指標と判断したため。										
	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度		
		0 %	令和5年度	-	85	85	85	-	85 %	令和8年度		
	実績値			-	66	0	0	-	66 %	評点	5	
	目標値の達成率			-	77.6%	0.0%	0.0%	-	77.6%			
指標④	KPI	継続利用意向							指標担当部課等	都市計画部総合交通政策課		
	設定根拠	当該サービスを利用したいかしたくないかを客観的に測るため。										
	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度		
		0 %	令和5年度	-	60	60	60	-	60 %	令和8年度		
	実績値			-	94	0	0	-	94 %	評点	10	
	目標値の達成率			-	156.7%	0.0%	0.0%	-	156.7%			
指標⑤	KPI	登録ドライバー数							指標担当部課等	都市計画部総合交通政策課		
	設定根拠	今回の施策のチャレンジに対する目標設定のため。										
	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度		
		0 人	令和5年度	-	80	100	150	-	150 人	令和8年度		
	実績値			-	88	0	0	-	88 人	評点	10	
	目標値の達成率			-	110.0%	0.0%	0.0%	-	58.7%			
指標⑥	KPI	配車時間							指標担当部課等	都市計画部総合交通政策課		
	設定根拠	お客様への品質確保の観点でも指標設定は重要と判断したため。										
	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度		
		0 分(以内)	令和5年度	-	20	15	12	-	12 分(以内)	令和8年度		
	実績値			-	1.4	0	0	-	1.4 分(以内)	評点	10	
	目標値の達成率			-	1395.3%	0.0%	0.0%	-	873.2%			

	KPI	行政区域を超えた運送件数							指標担当部課等	都市計画部総合交通政策課		
	設定根拠	今回のチャレンジの大きな取り組みの一つであるため。										
指標 ⑦	目標値	従前値	基準年度	R5	R6	R7	R8	R9	合計	目標年度		
		0 件	令和5年度	-	100	400	900	-	900 件	令和8年度		
	実績値			-	33	0	0	-	33 件	評点	0	
	目標値の達成率			-	33.0%	0.0%	0.0%	-	3.7%			
評価の分析	評点の平均値	R6年度実施内容(特記事項)									総合評価	
	6.4	・1種免許ドライバーの募集・育成・管理をワンストップで行う公共ライドシェアPF「ドライバーバンク」を4市共同で構築し、目標となる76名(バックアップドライバー12名を除く)の運行可能なドライバーを登録した。 ・令和7年1月27日から、4エリアで公共ライドシェアの運行を開始し、住民や来訪者に対して、交通空白エリアにおける自由で効率的な移動手段を提供した。									C	
	KPI進歩評価										イ:据置き	
	C											
課題	今後の取組(改善目標)											
	・運行が交通空白地に限られるため、運行エリアや時間帯によって利用者が限定される。 ・確保したドライバーの人数に対して予約数が少なく、ドライバーの約半数が1回も運行できていない。 ・ユーザーアプリの利便性に対する不満が、サービス全体の満足度を低下させている。					・新しい交通サービスの周知が不足しており、設定したエリア及び時間帯での需要の掘り起こしが不十分だったため、各エリアのターゲット層の分析とターゲット層に合わせた効果的な広報施策を実施し、利用者増につなげる。 ・インタビューやアンケートを通して得られた利用者の意見を基に、アプリのユーザーインターフェース及び機能を改善し、利便性の向上を図る。						